

(仮称) 仙台市文化芸術推進基本計画 (中間案) に関する  
パブリックコメントの実施結果について

1 実施概要

(1) 実施期間

令和5年11月22日(水)から令和5年12月21日(木)まで

(2) 周知方法

市ホームページ及び市政だより12月号への掲載のほか、市政情報センター、各区役所・総合支所、文化施設等へ資料を配架した。また、ヒアリング調査等を行った関係団体・個人への案内や11月26日(日)に開催したシンポジウムを通じて周知を図った。

(3) 意見提出方法

電子申請、郵送、電子メール、ファクス

2 意見提出件数

107件(32名(団体・個人))

【意見の分類及び件数内訳】

意見分類	件数
目指す姿1に関するご意見	7件
目指す姿2に関するご意見	5件
目指す姿3に関するご意見	18件
目指す姿4に関するご意見	10件
目指す姿5に関するご意見	7件
目指す姿1～5を横断する施策に関するご意見	26件
計画全体・その他に関するご意見	34件
計	107件

### 3 意見の概要と本市の考え方

#### ■目指す姿1「あらゆる人に参加機会がひらかれ、文化芸術に親しめるまち」に関するもの (7件)

No.	ご意見の概要	本市の考え方
1	<p>新たに整備する音楽ホールは「仙台の文化芸術の総合拠点」とされているが、市内には泉文化創造センターや宮城野区文化センター、太白区文化センター等もあり、これらも文化芸術の拠点の一つである。この基本計画を着実に進めていくためには、こうした施設での取組みにより、面的な広がりだけでなく、重層感が生まれてくるものと思う。当該施設管理者においても本計画の策定の趣旨を十二分に踏まえた事業展開等が必須と思われる。</p>	<p>基本施策①において、「各文化施設の取組みの充実」の項目を設け、ご指摘のあった文化施設も含めて記載したところです。市民が身近に文化芸術に触れる基盤となるこれらの施設とも、本計画の趣旨や内容を共有し、施設それぞれの特色を生かした取組みを充実させることはもとより、施設間の連携も図りながら、市民が文化芸術に親しめる環境づくりを推進してまいります。</p>
2	<p>文化施設について、事業を行っていないときの施設のあり方についても考えていかなければならない課題ではないか。また、各施設の事業にとどまらず、施設同士で連携した事業等を行うということも考えられるのではないか。</p>	<p>文化施設が事業を行っていないときでも多くの人が気軽に訪れる場となることは重要な視点であり、現在検討を進めている新たな複合施設においても、そのような視点に立った施設像を目指しています。</p> <p>また、各施設それぞれの特色を生かした取組みを充実させることはもとより、施設間の連携も図りながら、市民が文化芸術に親しめる環境づくりを推進してまいります。</p>
3	<p>今年の夏に開催した音楽会での経験からご意見をさせていただく。</p> <p>デイサービスとプロの芸術家が出会い、地域の人々と繋がっていく機会によって、地域の人々が自主的に活動して、心からの喜びとなった。心の復興にも繋がった。少人数で、会場も身近で顔の見える関係性の人たちだからこそ、緊張することなく心穏やかに過ごせた。音楽の力による復興センター・東北さんによるクラシックの音楽会だった。高齢者と障害者の共生型デイサービスにて、利用者さんとスタッフと地域の方々と共に楽しんだ。</p> <p>バイオリン奏者さんは、移動困難な利用者さんの側で寄り添う様に音楽を奏でて、周囲に暖かい雰囲気広がりが、障害の理解が自ずと深まった。</p>	<p>基本施策②において、年齢、障害の有無、国籍等に関わらず、あらゆる人が文化芸術を享受し、新たな創造に寄与できる環境づくりを推進することとしております。</p> <p>多様な主体と連携しながら、重度の障害をお持ちの方も文化芸術に接する機会をもてるよう、その機会の充実に向けた取組みの推進に努めてまいります。</p>

No.	ご意見の概要	本市の考え方
	<p>また、事前にリクエストした曲は地域の盆踊りの盆唄であり、利用者さん3人が先生となり、2ヶ月近く踊りを自主練習し、相談して振り付けも考えた。当日は、バイオリンとピアノの生演奏で、楽譜を探し回ることまでしていただきました。当日は、利用者さんの集めた法被を着て、地域からの参加者の皆さんにも着て頂き、みんなで踊った。その様子を話すと、隣の地区の夏祭りで盆踊りを教えてほしいとご希望をいただき、ご縁が広がった。</p> <p>どうか、身近な地区で少人数であっても、重度の障害があっても、文化芸術に接する機会をもてるように、福祉現場へのプロの芸術家への派遣と事前事後の活動支援をお願いしたい。</p>	
4	<p>基本施策①「各文化施設の取組みの充実」において、市内には様々な文化施設が記載されている。これだけ多くの文化施設が市内にあるということは財産だと感じる。それぞれの文化施設がそれぞれで取組みを充実するだけでなく、連携事業を行うなど、文化施設のネットワークを活かした文化事業を望む。また、仙台市の施設ではないため、美術館等記載されていないが、市内にある文化芸術の公共施設として、連携できるとさらに市民が文化芸術に親しめる環境になるのではないかと感じる。</p>	<p>現在も、設置者の枠を超えたミュージアム連携事業を行っているところではありますが、今後も各施設の機能や特色を生かした取組みや本市所管外の施設も含めた施設間のネットワークを生かした取組みを進めてまいります。</p>
5	<p>基本施策①「文化芸術に親しめる環境づくり」について、残念ながら仙台市の美術館はないため、ミュージアム連携においては宮城県美術館や近隣自治体の美術館の学芸員等と連携して美術分野の施策を進めることにより、より充実した内容になると考える。</p> <p>一方で民間の美術館が市民の鑑賞の機会や発表の場として重要な役割を担っている。これらとの連携・情報共有や運営への支援も必要である。</p>	<p>文化芸術に広く親しめる環境づくりを進めるためには、ご指摘のとおり、他自治体や民間施設等との連携が重要となるものと認識しており、基本施策①にも多様な主体との連携による鑑賞機会等の創出を掲げたところです。</p> <p>いただいたご意見につきましては、今後の取組みの参考とさせていただきます。</p>
6	<p>基本施策①「文化芸術に親しめる環境づくり」について、公共施設や企業のロビーなどもかつては展示スペースとして利用されていた</p>	<p>文化芸術活動の場の充実につなげるため、文化施設をはじめとした公共空間（道路、公園等）の利活用も通じて、市民が日常的に文化</p>

No.	ご意見の概要	本市の考え方
	<p>が、今はほとんどなくなっている。それらの再活用をすすめるとともに、今後整備される公共施設においてはギャラリー等の設置を積極的に検討すべき。</p>	<p>芸術に親しめる環境づくりに努めてまいります。</p> <p>いただいたご意見につきましては、今後の取組みの参考とさせていただきます。</p>
7	<p>市民アンケートの結果からの考察。</p> <p>参考資料 54 ページの①鑑賞の状況についての結果からは、確かに8割の人が鑑賞機会を過去1年間に持ち、7割の人が今後も機会をもちたいと回答している。そして鑑賞のための望ましいことは手頃な料金で楽しめることだと半数近くが回答している。続く⑤仙台市が文化芸術の面で優れていると思う点はどういう質問では、「全国に誇れるイベント・フェスティバルがあること」に半数以上が回答している反面、60ページの地元オーケストラの鑑賞経験は鑑賞したことがない、名前すら知らない人が7割となっている。</p> <p>これらを踏まえると、鑑賞機会をもっていた8割の人たちは、「ジャズフェス」や「青葉まつり」「とっておきの音楽祭」などストリートで開催される市民の手による文化イベントの鑑賞により体験を得ているのではないかと考える。仙台市民の文化鑑賞における現在地として、鑑賞することには慣れているが、文化芸術体験の選択肢をたくさん知っているわけでは無い、文化芸術体験の本質には触れていない、そういう印象を受けた。ストリートイベントの文化が市民の手で長年をかけて保たれてきたことは事実であり誇れる文化だと思うが、仙台市民にとっての文化体験がそこに集約され、それ以外の選択肢が市民の文化環境の中で少ないのではと感じた。</p> <p>「質の高い作品や著名アーティストの作品の鑑賞機会」を半数以上の方が求めているという結果にもその点は現れているのではと感じた。「質が高い」や「優れている」という評価は誰が決めるのか、著名人が出演しているものが優れているのか、この回答からは多様で様々な種類の芸術作品に触れ養われた感覚</p>	<p>本計画の策定に際して設置した外部有識者による懇話会の場において、目指す姿1～5に優劣はないものの、「あらゆる人に参加機会がひらかれ、文化芸術に親しめるまち」が基軸となるのご意見をいただき、それを「目指す姿1」として初めに掲げたところです。</p> <p>ご意見のとおり、本計画の主役は市民であるという認識のもと、基本理念において「仙台の豊かな文化を築き、またその文化を未来へとつなぎ、発展に導く中心となるのは市民です」との考え方を示したところです。また、計画の推進にあたっては、市民や文化芸術関係者の皆様の視点を取り入れながら、評価・点検を実施することとしております。加えて、新たに整備する音楽ホールでは「市民とプロがともに主役となり、これまで蓄積してきた資源を生かしながら、仙台ならではの創造発信を行う拠点」とすることを基本構想の中で掲げております。今後も、市民の皆様との協働により、より一層の施策の推進を図ってまいります。</p> <p>なお、調査結果について、本市の地元オーケストラの認知度は8割を超えておりますことを申し添えます。</p>

No.	ご意見の概要	本市の考え方
	<p>や評価軸が市民の中で醸成されているのではないように感じられる。平たく言えば、市民が満足度をあげるために市に求めるものが安易にも感じられる。</p> <p>以上のことから、22 ページ目で示されている「目指す姿1」「あらゆる人に参加機会がひらかれ、文化芸術に親しめるまち」を実現するための具体的な取組みが実現することを願ってやまない。中間案の計画に示された内容は膨大で多岐に渡ることから、実際に取り組む、推進する段階では優先順位や取り組む時期が適切に行われることも重要だと思う。その際に、今後の本計画の推進や新音楽ホールにおいても、プロセスの段階からアーティストも含めて市民が主人公となる取組みの展開を期待する。そうした優先順位や、特色、計画のオリジナリティが計画全体の中で示されていると良いと感じた。</p>	

■目指す姿2「多様な文化芸術活動が展開され、その担い手が育まれるまち」に関するもの  
(5件)

No.	ご意見の概要	本市の考え方
8	<p>特定の人物や団体のみが多くの上業制作に携わっていることや、特定の人物や団体のみが恩恵を受けるような現状が見受けられるので、ぜひ是正していただきたい。</p>	<p>文化芸術の力を生かした様々な社会課題と向き合う取組みについては、その目的等を踏まえた専門性、経験等を有する多様な主体との連携・協力により進めてまいります。また、助成事業に関しては、選定者を仙台市外の専門家に依頼する等の配慮をしておりますが、今後もより一層、公平・公正な選定プロセスを経ることを心がけるとともに、助成事業をより多くの皆様に知っていただけるよう、周知広報にも力を入れてまいります。</p>
9	<p>令和2（2020）年に開催されたシンポジウム「音楽の力による心の復興とその支援体制の構築」において、災害が起きた際には、誰が、何を、どのように行うのかということ事前に約束事として決めておくことの必要性が指摘されており、令和5（2023）年に開催</p>	<p>本市では、東日本大震災後の復興の過程において、子どもたちの心のケアを目的として始まったアウトリーチ事業、音楽の力による心の復興支援のほか、市民主体による様々な文化芸術活動が生まれ、その多くが今日まで続けられています。このような活動により培わ</p>

No.	ご意見の概要	本市の考え方
	されたシンポジウム「時代はアートだ！芸術文化が拓く、わたしたちの（社会）未来図」でも、同様の提案がなされている。災害が多発する時代となっており、文化芸術という復興資源を非常時に活用する仕組みを平時に構築することが求められていると考える。	れたノウハウやネットワークを平時の文化芸術振興施策にも生かし、さらなるノウハウの蓄積、ネットワークの強化等を図ってまいります。
10	顔の見える関係をつくっていかれたらと思う。仙台市の、こうしたテキスト（計画）を作成したり、考えたりしている人たちの顔が見えてくると色々なことがもっとスムーズにいくのではないかと思います。	本計画の推進にあたりましては、市民協働により各般の取組みを進めるとともに、本計画の進捗管理におきましても市民や文化芸術関係者等の視点を取り入れるなどして、顔の見える関係をつくってまいります。
11	基本施策③「市民の文化芸術活動支援」について、市民文化事業団が発行する「まちりよく」の紙面やウェブサイトで活動の周知がされているものの、これは助成・後援を受けたもののみであり、多くの市民の様々な文化活動を考えると、非常に限定的。誰でもいつでも簡単に情報を発信でき、受け取ることができるしくみが望まれる。	各文化施設等において、多様な主体による様々な文化芸術活動のチラシの配架等を行い、広報の支援を行っているところでございます。いただいたご意見につきましては、今後の取組みの参考とさせていただきます。
12	基本施策③「市民の文化芸術活動支援」について、市内の貸しギャラリー等が大幅に減少しており経営も厳しい今、それらへの支援が必要。具体的には展示情報の広報支援やギャラリー巡り企画等が考えられる。	

■目指す姿3「子どものときから文化芸術との出会いがあり、若者のチャレンジを応援するまち」に関するもの（18件）

No.	ご意見の概要	本市の考え方
13	令和5（2023）年度から、アウトリーチ事業（文化庁派遣事業）の対象から幼稚園、保育所、児童館が外された。文化庁の予算がつかなくても、アーティスト側も努力すべきと考え、有志、自己資金で情報ペーパーを作成し、幼稚園、保育所、児童館に情報を届ける取組みを進めている。 本気でアウトリーチに取り組もうとするほど、そこにかかる機材・道具・研修費・稽古場・	本計画においては、未就学児を含めたアウトリーチ事業として、「学校・保育所等へアーティストを派遣する取組み」を重点プロジェクト②に掲げ、独自の事業として実施することを見込んでおります。子どもの頃から文化芸術に触れる機会の充実に向けて、取組みを進めてまいります。

No.	ご意見の概要	本市の考え方
	<p>交通費など必要経費は増えていく。児童施設は商業イベント・一般公演と比して予算規模が小さく、また必要な機材・知識技術も違うのが現状。仙台市が予算を確保し、アウトリーチ実施にかかる費用を全部または一部負担してほしい。</p>	
14	<p>計画本編 P. 16  <b>■課題「①興味関心から実際の鑑賞・活動につなげる方策の充実、アクセスの改善」</b>において、「アウトリーチや芸術鑑賞会の重要性を認識し、仕組みとして一層の整備が必要」とあるが、本当にその必要性を感じているのであれば、幼稚園や保育園、小学校等の教育機関とアーティストがもっと自由に繋がったり、交流したりできるようにしてほしい。それは、アーティストに限らず、地域のおじちゃんおばちゃんなのかもしれない。</p>	<p>本計画においては、重点プロジェクト②で「学校・保育所等へアーティストを派遣する取組み」を実施することとしております。こうした取組みを通じて、子どもたちとアーティストが交流できる機会の創出に努めてまいります。</p>
15	<p>学校へのアウトリーチについて。  私は現在文化庁の芸術家派遣事業のコーディネーターとして学校など子供がいる施設に伺う機会が多く、アウトリーチ活動にとっても価値を感じている。住んでいる地域や家庭の事情により、芸術文化に触れる機会や体験に差があること、先生も経験や認識にだいぶグラデーションがあること、慣れた場所で友達同士で共有体験をすることができ、その後の学校生活においてもよい影響があることなどこれまでの活動や先生の話からも必要なことだと思う。ぜひ機会を増やしていただけたい。</p>	<p>本計画においては、重点プロジェクト②で「学校・保育所等へアーティストを派遣する取組み」を実施することとしております。今後も、アウトリーチの機会の充実に努めてまいります。</p>
16	<p>「学校教育との連携」に関して、鑑賞体験のみしか触れられていないが、実際にコミュニケーション教育の一環として、アーティストが学校教育の現場に関わる機会が増えてきている。「鑑賞型」以外にも様々な学校教育との連携の仕方があるので、積極的に提唱・推進して欲しい。  学校・幼稚園・保育所・児童館へのアーティストの派遣の取組みを明文化して頂けたのはありがたい。文化庁の派遣事業から未就学児</p>	<p>本計画においては、重点プロジェクト②の「学校・保育所等へアーティストを派遣する取組み」を通じて、鑑賞だけではなく、未就学児を含めた子どもたちの文化芸術の体験等の機会の充実に努めてまいります。</p>

No.	ご意見の概要	本市の考え方
	への派遣が対象外になった今、仙台市には独自で優先的にこの取り組みを実施していただきたい。	
17	「子どもの文化芸術活動に親しむ機会の充実」のアーティスト派遣について、学校だけでなくフリースクールや子ども食堂など、あらゆる子どもに向けて実施できるよう場所の選択肢を広げてほしい。	基本施策②において、年齢、障害の有無、国籍等に関わらず、あらゆる人が文化芸術を享受し、新たな創造に寄与できる環境づくりを推進することとしております。
18	こども食堂で活動をしている。ひとり親世帯だけでなく、どなたでもどうぞという形で開いているが、生活が大変な方もいらっしゃる。生活が大変だと文化的なことに接する機会がないのではと感じている。 先日、無声映画にプロの方が音楽をつけて上映したり、演奏してくれる機会があり、とてもいい時間だった。申し訳ないことに、今回はほぼボランティアで来ていただいた。本当は来てくださった方にきちんとお支払いするべきだと思った。 小学校や保育園だけでなく、こども食堂にもプロの方が来てくれる機会があったらとてもよいと思う。	また、基本施策⑤において、子どもが社会的・経済的環境に関わらず文化芸術に出会う機会の充実を図ることとしており、多様な主体と連携しながら、多くの子どもたちが文化芸術に接する機会をもてるよう、取り組んでまいります。
19	「子どもたちが文化芸術に出会う機会」をつくることのできる人材を適切に評価し、支援・育成することについて。 アウトリーチ事業でアーティスト以上にその中核を担ってきたのが、コーディネーターの存在である。施設と打ち合わせを進め、必要な情報をつないで、当日、アーティストと子どもたちができる限り最高の時間をつくれるように働きかけてくれている。また、たくさんの施設、地域やアーティストの実態も把握している。これまでの経験を持つコーディネーターの存在を今後の取り組みでも大事にし、予算を確保して頂きたい。また、これらの経験を暗黙知に止まらせず、その知識・技術を共有できるよう、研修の機会などがあると良いと思う。同時に、アーティストの中にも、実施以外の機会でも子どもや障害のある方と関わる機会を積極的に持ち、研修会などの機会を通して子	本市といたしましても、豊かな文化芸術環境をつくるうえで、その担い手を適切に評価し、支援・育成することは重要であると認識しており、重点プロジェクト①に「担い手の育成と活動環境の向上に向けた検討」を掲げたところです。アーティストやコーディネーター等、多様な人材が本市を拠点に活動を継続できるよう、その育成と活動環境の向上に向けた検討を進めてまいります。



No.	ご意見の概要	本市の考え方
	<p>どもの発達や子ども文化、対人援助の技術について学んでいるアーティストがいる。また、子どもからのメッセージをその場で受け取ることができる、双方向性を重要視しているアーティストもいる。こちらも、適切に評価していただきたい。</p>	
20	<p>中間案に、「わかりやすい版」「ルビがある版」等もあるのがとても良いと思った。</p> <p>仕事で何度か「舞台手話通訳」のある舞台に関わった。記者会見などの手話通訳と違い、俳優と同じかそれ以上の表現力を要求される舞台手話通訳者という専門家が日本にそもそも少なく、養成する機会や仕事として成り立つ仕組みが必要と思われる。演者と観客の間の橋渡しをする役割の人、伴走者である通訳者や、制作スタッフ、コーディネーターの必要性、重要性が周知され、仕事として受けられる人材の確保、育成が必要と思った。</p>	<p>目指す姿1～5を横断する施策に「担い手の育成と活動環境の向上に向けた検討」を掲げております。今後、多様な人材が本市を拠点に活動を継続できるよう、その育成や活動環境の向上に向けた検討を進めてまいります。</p>
21	<p>基本施策⑤の主な取り組み、「学校・保育所等へアーティストを派遣する取組み」を重点プロジェクトと位置付けたのは素晴らしいと感じる。東日本大震災後に、被災地を対象とした文化庁芸術家派遣事業-東日本大震災復興支援対応-が現在まで実施されており、事業をきっかけに、芸術を用いて社会に貢献できることに気づいたアーティストも多く、様々なアウトリーチプログラムも生まれた。事業の枠組みの中で、しっかりと対価を得て活動できることも大きな要因だったかと思う。特に仙台市・宮城県実行委員会では学校以外の子供の施設で実施ができたことが、他の地域に比べて特に良かった点だと感じている。学校への芸術家派遣では全国でトップランナーの横浜市でも、派遣先は学校のみとなっており、それ以外の子供の施設での実施は行っていない。学校の場合は多くは全校生徒や学年での鑑賞となってしまうことが多く、どうしても大人数を対象としたプログラムを好まれる傾向がある。保育所や児童館、学童保育、フリー</p>	<p>本計画においては、未就学児を含めたアウトリーチ事業として「学校・保育所等へアーティストを派遣する取組み」を重点プロジェクト②に掲げ、独自の事業として実施することを見込んでおります。子どもの頃から文化芸術に触れる機会の充実に向けて、アウトリーチ事業の担い手であるアーティストの育成にもつながる事業であるとのこと指摘も踏まえながら、今後も取組みを進めてまいります。</p>

No.	ご意見の概要	本市の考え方
	<p>スクール、障害児デイサービス、シェルター、乳児院、病児保育の団体等、様々な子供の施設や団体で実施を重ねることで、様々な環境で多様な人々へ、どうしたら伝わるか、楽しんでもらえるかを試行錯誤しながら実施を重ねてきたからこそ、多種多様なアートプログラムが生まれ、文化芸術の担い手の育成も図られてきたかと思う。ただ、今年度より予算がこれまでの三分の一となり、学校以外の施設は不可となった。現在の震災復興支援対応版が、近いうちになくなるのではないかと危機感を感じている中、仙台市文化芸術推進基本計画の重点項目となっていることが、上記の多種多様なプログラムが生まれることや実施するアーティストの育成にも繋がっていくかと思う。</p>	
22	<p>アウトリーチ先となる各施設に情報を届けるための具体的な取組みをなるべく早く実施してほしい。</p> <p>文化庁派遣事業の縮小改変後、文化芸術に触れられない子どもたちがなるべく少なく済むように、迅速な取組みをお願いしたい。特に仙台市に期待したいことは、情報の集約・編集作業と、各施設への郵送作業である。個人で取り組んでみた結果、郵送には資金・労力・信用力の面で課題があり、ぜひ公的に取り組んでいただきたい部分と感じた。</p>	<p>本計画においては、未就学児を含めたアウトリーチ事業を重点プロジェクト②に掲げ、独自の事業として実施することを見込んでおります。</p> <p>実施にあたっては、より多くの施設から申込みいただけるよう周知に努めてまいります。</p>
23	<p>アウトリーチ先となる各施設が自己資金を確保してアーティストを呼ぶという機運を醸成してほしい。</p> <p>仙台市の予算だけで実施を賄うのは難しい面もあるかと思う。各施設が予算確保に取り組めるよう、シンポジウムや研修会などで、仙台市としてこれらの取組みを推奨し、魅力をプレゼンするとともに、具体的な予算確保の方法やバリエーションについても情報共有できるような仕掛けを進めてほしい。</p>	<p>子どものときから文化芸術に触れることの大切さや、アウトリーチ事業の意義や効果について各施設の方々に知っていただき、アウトリーチ事業の活用が広がるよう情報共有の仕掛け等について検討を行ってまいります。</p>
24	<p>「第3章 計画の全体像 4 重点プロジェクト」に、②創造性をひらく子ども・若者プロジェクトとして「学校、保育所等へアーティスト</p>	<p>現在も本市で行っているアウトリーチ事業の実行委員会には、教育委員会も参加しております。また、計画本編 p.52 の「推進体制」</p>

No.	ご意見の概要	本市の考え方
	<p>を派遣する取り組み」が基本施策として記載されているが、その実施においては大きな課題がある。例えば、現在でも、文化庁の企画（予算もあり）等に応じて、学校や子供たちに講師派遣のアプローチを試みる機会があるが、学校と教育委員会との調整がうまくゆかないためか、開催案内（パンフレット）が各学校に積んであるだけとなってしまうことも多くある。この壁を打ち破るためには、教育委員会と学校の現場など関係者の連携が必要となる旨を基本方針に明記する必要がある。</p>	<p>において、「関係機関」に「教育機関」を記載し、連携していく旨を明記したところで。今後も、アウトリーチ事業の実施にあたっては、教育機関をはじめ、様々な関係者と連携のうえ、取組みを進めてまいります。</p>
25	<p>基本施策⑤の主な取り組み、「学校教育と連携した児童・生徒の文化芸術体験」において、主に芸術鑑賞の機会を記載されているが、現在せんだい演劇工房 10-BOX が、高校演劇へのアドバイスや、宮城野高校にて総合的な探求の時間に行われている「舞台表現ゼミ」の協力をされている。年々高校の演劇部が少なくなる中、ましてや演劇をやったことのない先生が演劇部の顧問やゼミの担当となってしまう、困っている様子を耳にすることが少なくない。鑑賞のみならず、10-BOX のように市内の劇場が学校と連携し、市内のアーティストに協力してもらい、生徒へのワークショップや指導などを担うことも、文化芸術の土壌を育むのに有効ではないか。</p>	<p>ご指摘の点も踏まえ、市内の文化施設やアーティスト等の多様な主体と連携しながら、学校の現状やニーズに応じた取組みを検討してまいります。</p>
26	<p>宮城・仙台には美大が不足しており美術を学ぶ環境が整っておらず、土壌も培われていない。土壌形成には長い時間が必要だが、まずは街中にある美術等を見に行き、他県の良いところを取り入れるべき。専門の教育を行い、子どもたちが自由に表現できる場をつくることが重要。音楽だけでなく美術にも力を入れてほしい。新しい芸術を生み出す人材を輩出する環境の整備を切に願う。</p>	<p>基本施策⑤において、子どもが文化芸術に出会う機会の充実を図ることを基本的な考え方として掲げており、また基本施策⑥においては、大学や地域の人材等と協働し、若い世代のアーティストの発表・活躍機会の創出につながる新たな取組みについて検討を進めることとしております。</p> <p>幅広い分野において、子どものときから文化芸術に触れる機会の充実を図るなど、環境づくりを進めてまいります。</p>
27	<p>文化芸術は、決して子どもだけのものでも、大人だけのものでもない。健常者だけのものでも、障害を持つ方が中心のものでもない。年配</p>	<p>本計画においては、重点プロジェクト②において、子どものときから文化芸術に出会い、親しむ機会の充実を図ることとしておりま</p>

No.	ご意見の概要	本市の考え方
	<p>者中心のものだけでなく、若い人中心のものだけでもない。経済的に時間的に余裕のある人たちだけのものでもない。市民、みんなのものである。文化芸術がみんなのものとしてとらえられて、実際に実感するためには、小さい時からの具体的な文化芸術との出会いが大切なのではないかと考えている。その出会いの中で、概念としての芸術よりも実体験としての芸術に触れ、実際に乳幼児期から文化芸術的な表現をするチャンスをとくさん持つことが大事なのではないかと考える。小さいころに、きちんと静かに鑑賞するんだよという触れ方ではなく、動いた心を素直に表現する場が必要だと考える。そのために必要な手立て、子どもたちが、親子が、家族が、仲間が、個人が関わる施設にも、芸術文化に触れやすい、表現する機会が持てるような人的、経済的な支援をお願いしたい。また、小さいころから、文化芸術に触れ、表現するチャンスを得るための、子どものための自由な表現のできる文化芸術を楽しむ場、子どものための劇場、人形劇場なども含めて、公の施設として作られることを願っている。公的な人形劇場を持つ地域（例えば北海道）やおもちゃというこどもがはじめて触れる芸術とかかわれる、おもちゃ美術館などを持つ地域もある。そうした子供の時からの文化芸術との出会いを大切にしたい仙台市であってほしいと強く願う。</p>	<p>す。 また、新たに整備する音楽ホールでは、「ホールの公演の鑑賞だけではない多様なアプローチで、文化芸術の持つ力をあらゆる人々に届け、暮らしやまちに浸透させる拠点」を基本構想の中で掲げ、小さな子どもも文化芸術を体験できる場として、ワークショップスタジオや子どものための空間を設けることを検討しております。 次世代を担う子どもたちがその置かれた環境等に関わらず文化芸術に触れる機会を得られるよう、各般の取組みを進めてまいります。</p>
28	<p>「P37 舞台芸術等の鑑賞体験機会の創出」について。 学校教育と連携した体験の段落で「劇団四季」によるミュージカル鑑賞等、という記載があるが、学校教育との連携の取組みにおいて東京資本の民間カンパニーが明記されていることに違和感がある。優れている、優れていない、を誰が判断するのかという課題にも通じるが、まずは文化資本の地産地消が優先ではないか。学校と連携し、生徒が劇団四季を鑑賞したとして、文化資本の循環を考えたときに、生徒が将来プレイヤーになっても、拠点は関</p>	<p>ご指摘の点も踏まえ、記載について見直しをいたします。文化資本の地産地消という視点も大切にしつつ、民間との連携も図りながら、幅広く子どもの文化芸術に触れる機会の充実を図ってまいります。</p>

No.	ご意見の概要	本市の考え方
	東ということになりかねない。	
29	基本施策⑥「若い世代との協働による新たな取り組みの検討」において、発表・活躍機会だけではなく、稽古やクリエイションへの支援もあるといいと感じた。およそ20年ほど前まで、アスピア（青少年勤労者ホーム）では登録した30歳以下の人は、無料で部屋を使用できるという施設があった。アスピアがあったことで、アスピアを稽古場所とした若手の劇団もどんどん増えていったと記憶している。当時と比べて、現在は物価も上がり、若手の人材が芸術活動をする上で、費用が嵩んでしまうため、気軽に活動をすることができないという状況があるのではないかと感じている。	稽古やクリエイションへの支援については、せんだい演劇工房 10-BOX において、創作者の目線に立った運営で、創作の過程での支援も行っているところです。 公共の施設については、適正な受益者負担の考え方が基本となりますが、目指す姿1～5を横断する施策において、「担い手の育成と活動環境の向上に向けた検討」を掲げており、多様な人材が本市を拠点に活動を継続できるような環境づくりに努めてまいります。
30	設立当初の目的と実状が噛み合っていない事業が存在するように感じる。長年の取り組みの中で一定の成果を上げられなかったもの、成果をあげ目的が達成されたもの、現在はその効果が下降線となっているものについては、取り組みの終了や抜本的改革が必要と思われる。	本計画の推進にあたり、基本施策等に位置づける各取り組みの実施状況について、市民や文化芸術関係者等の視点も取り入れながら、毎年度把握・点検を実施してまいります。また、その結果を次年度の取り組みや次期計画策定時の検証に生かしてまいります。

■目指す姿4「歴史と記憶が継承され、未来を描く礎となるまち」に関するもの（10件）

No.	ご意見の概要	本市の考え方
31	より多くの方に日本の伝統文化に触れてもらう方法としては、垣根を低くすることよりも、触れる機会を増やすことが重要ではないかと考える。内容に触れれば魅力を感じてもらえると思う。月1回など定期的に、学校の先生方には負担をかけない形で放課後の活動に取り入れたり、あるいは仙台緑彩館を活動の場にできたりすると良いのではないかと。文教地区で活動できることも重要かと思う。	触れる機会を増やすことが重要とのご指摘は本市といたしましても実感しております。民俗文化財につきましては、保存団体等が地域や種類の垣根を越えた交流・連携を行ったり、一般の方々に体験していただける場をつくったりする試みを始めております。伝統文化全般につきましても、庁内外の関係部署と連携しながら、これまで以上に「触れる機会」の創出に努めてまいります。
32	市の職員の中に、日本の伝統文化を熟知して担当する専門職員がいるとよい。そうした職員を通じた活動支援があると活動がスムーズになるのではないかと。	これまでも必要に応じた専門職員の配置に努めてまいりましたが、いただいたご指摘も踏まえ、業務の改善や伝統文化に携わる方々との関わり方の工夫もあわせて行いながら、適

No.	ご意見の概要	本市の考え方
		切な専門職員の配置に努めてまいります。
33	<p>仙台民俗芸能等保存継承協議会の設立に期待する。団体相互の交流が重要と考える。立ち止まらず前に進んでほしい。</p> <p>活発な意見交換会を切望している。</p>	<p>民俗芸能を次世代に継承していけるよう、今後も団体相互の交流・意見交換の促進を通じたノウハウ・アイデアの共有や団体間の連携の強化等に向けた取組みを進めてまいります。</p>
34	<p>計画本編 P. 16</p> <p>■課題「伝統芸能等（保存活動を含む）への周囲の理解を得る取組み・後継者の不足」において、「少子化や子どもの多忙さ等により、文化芸術活動を行う子どもが減少傾向にある」とあるが、伝統芸能、民俗芸能の格好良さをもっと伝えていくのが良いのだと思う。格好良ければ、やってみたい！につながるはず。</p>	<p>本市といたしましても、若い世代を惹きつける発想や工夫が重要と考えております。いただいたご指摘も踏まえ、長い年月の中で形づくられてきた伝統芸能や民俗芸能の本質的な部分に配慮しながら、若い世代が参加したいと思える魅力の発掘・発信に取り組んでまいります。</p>
35	<p>「第2章-3 文化芸術面の強み・個性、課題と今後の方向性」において伊達政宗が発展させた文化が仙台的文化的な土台と記載してある。従って、能楽をはじめとするこれらの文化的遺産を、今後の文化都市仙台の構築においてどのように位置付けてゆくのかといった視点が必要ではないかと思う。</p> <p>具体的には、政宗公が好み、自らも演じた能楽の振興を仙台的文化的な特異性として位置付けるとともに、その象徴としての能楽堂建設の必要性を記載頂きたいと思う。「第4章 施策の展開」基本政策⑦ 伝統芸能、文化財、民俗芸能等の継承・普及啓発の主な取組みの中で、能-BOXの活用について記載されている。しかし、能-BOXは、稽古用の小さな舞台であり正式な能の公演は出来ない。もちろん能のお稽古用舞台として活用していくことは必要だが、仙台の文化・芸術振興の施策の一つとして能文化の普及を掲げるとした場合、能の公演が可能な本格的な能舞台の整備が必須であると考えます。</p>	<p>「政宗公が好み、自らも演じた能楽の振興」については、第2章「2本市の文化芸術振興に係る取組み」において、本市の文化的特徴として「伊達家もその振興に力を注いだ能楽」と記載をしております。</p> <p>また、活動環境についてのご意見を踏まえ、基本施策⑦の「能楽普及に向けた取組み」の説明に、「能楽を中心とした伝統芸能の活動環境の充実に向けた検討を進めます」と追記いたします。</p>
36	<p>「アーカイブ」（とくにP43）という用語について。</p> <p>「博物館所蔵文化財のアーカイブ」「地域文</p>	<p>「アーカイブ」及び「アーカイブズ」の使い分けには様々な解釈があるものと認識しておりますが、本計画においては、「アーカイ</p>

No.	ご意見の概要	本市の考え方
	<p>化アーカイブ」「災害記憶共有アーカイブ」など「アーカイブ」ということばが用いられているが、これらは「様々な記録や記憶を扱う」という意味であり、「アーカイブズ」を用いるのが適当である。</p>	<p>ブ」に統一したいと考えております。</p>
37	<p>言及のない市立施設について。</p> <p>「歴史と記憶が継承され、未来を描く礎となるまち」にかかわる仙台市の施設でありながら、言及のないものがある。</p> <p>ひとつは、本年7月に開館した仙台市公文書館である。上記のように基本計画案には「アーカイブ」ということばが頻出する。しかし、本年7月に開館した仙台市公文書館への言及がないことには違和感がある。公文書館の設置と歴史資料の保存をどのように関係づけるのかについて方針が示されるべきではないだろうか。あるいは、公文書館が教育委員会の所管でないために除外されているのかもしれない。しかし、それでは「仙台市」の「基本計画」名にふさわしいものにはならないのではないか。</p> <p>もうひとつは、戦災復興記念館である。同館は戦争とりわけ仙台空襲の「記憶」を継承するという役割を担っている。かかる施設は本館だけでなく、「仙台歴史ミュージアムネットワーク」の中に埋没させるべきではないと考える。</p>	<p>仙台市公文書館は、歴史的公文書等を適切に保存し、利用していただくための施設であり、本計画に示した他のミュージアム施設とは性質が異なることから、本計画への位置づけは見送りたいと考えております。しかしながら、仙台市公文書館に所蔵されている資料は、市の活動や歴史的事実を示す、市および市民にとって貴重な財産であると認識しており、市の活動の検証や、市が事業を行う際の先例として活用しながら、現在そして将来の市民のために、市政の記録を残し、伝えてまいります。</p> <p>また、本計画において戦争の記憶の継承等の取組みについての記載はございませんが、仙台市博物館をはじめとする各ミュージアム施設と同じく、戦災復興記念館につきましても、引き続き仙台空襲と復興事業の記録を保存・展示するとともに、毎年開催している戦災復興展や学校等へ出張して行っている平和学習などの機会も活用しながら、次世代への継承や普及啓発、アーカイブなどに取り組んでまいります。なお、同館につきましては、「音楽ホール整備に伴う市内ホール施設の体系の整理（令和2年11月）」において、施設の老朽化等の状況を踏まえ、また、戦災復興記念館が担ってきたホール機能の役割は音楽ホールの小ホール等で代替が可能と考えられることから、音楽ホール整備後は、施設の更新を行わない方向での検討が望ましいと整理しておりますが、会議室等の諸室機能や戦災記録の保存・展示機能をどのように存続させるかにつきましては、その重要性を十分に踏まえ、別途検討を進めてまいります。</p>

No.	ご意見の概要	本市の考え方
38	『仙台市史』の成果の活用について。 長年にわたり仙台市と研究者が、血税と労力を注いで完成させた『仙台市史』全32巻の成果・遺産をどのように継承・活用していくのかを、ぜひ「基本計画」に盛り込んでいただきたい。	本計画は文化芸術振興の今後の方向性を示すものであり、個別の資料の名称については言及していないところですが、『仙台市史』の成果については、目指す姿4「歴史と記憶が継承され、未来を描く礎となるまち」の実現に向けて、今後の各般の取組みにおいて活用してまいります。
39	ギャラリストより、仙台市の重要なアーティスト作品が東京や海外に流出する危機的状況であることが指摘されている。例えば、s m tの現代美術展で取り上げられてきたダダカンの作品は今やそのようになっている。美術作品のアーカイブの難しさはあるが、仙台固有のアーティストおよびその作品に関する価値付けやアーカイブについても触れるよう、計画を再考してほしい。また、それらを現在は民間ギャラリー等で担っているが、経済的・人員的にも困窮している。仙台の貴重な文化芸術の資産であるので、継続できる仕組みが必要。	基本施策⑧の主な取組みとして「各ミュージアム施設におけるアーカイブの推進」を設けることとし、その中で貴重な作品等の収集・保存などに努めてまいります。
40	「……様々な災禍を踏まえた経験が……歴史ある豊かな文化的環境が次の世代に受け継がれるまち」とあるが、この土地の時間軸だけで考えるのではなく、他の地域で活用できるような文言を付け加えた方が良いと思った。東日本大震災の時には阪神淡路大震災の経験者たちが動いていただいた。他の地域で同じような災禍が起こった際に、私たちの経験を迅速に活かすことができるようにする意識を持って計画に書いてあると良いと思う。	本市では、東日本大震災からの復興の過程において、子どもたちの心のケアを目的としたアウトリーチ事業、音楽の力による心の復興支援のほか、市民主体による様々な文化芸術活動が生まれ、その多くが今日まで続けられています。このような活動により培われたノウハウやネットワークを平時の文化芸術振興施策にも生かし、さらなるノウハウの蓄積、ネットワークの強化等を図ってまいります。

■目指す姿5「文化芸術によって都市の個性が磨かれ、人を惹きつけ躍動するまち」に関するもの（7件）

NO.	ご意見の概要	本市の考え方
41	「楽都仙台」「劇都仙台」という取組みは少なくとも平成初期から行われていると思うが、景気や市民の動向に敏感な「景気ウォッチャー」と呼ばれる業種の人々にいまだに認	本市では「楽都仙台」「劇都仙台」について、市の音楽振興事業、演劇振興事業を示すだけでなく、市民による音楽活動や演劇活動が盛んであることも含め、本市の都市個性



NO.	ご意見の概要	本市の考え方
	<p>知られていない事業も多くあり、経済効果や市民への還元率について費用対効果が薄いのであれば、仙台市としてやらなければならない理由、多くの税金を投入する理由がどれくらいあるのか疑問に感じる。</p>	<p>を表す言葉として使用してきました。今後も、これらの都市個性をさらに磨き上げ、効果的な情報発信に努めてまいります。また、各取組みについては、毎年度実施状況等を確認し、効果の検証を行ってまいります。</p>
42	<p>11/26のシンポジウムに参加した。仙台には文化コンテンツがたくさんあって、市として観光客にPRしたいものだけでなく、逆に市や市民が気づいていない価値のあるコンテンツもあるような気がした。重点プロジェクトを進める際には、中高生などの学生や働く世代等、普段は意見を言わない世代の意見も吸い上げられると基本理念の実現につながるのではと思った。</p>	<p>文化コンテンツの活用には、既存のコンテンツの活用にとどまらず、新たな魅力あるコンテンツの発掘や創出にも努めてまいります。また、計画の推進に際しては、学生や働く世代等の若い世代の意見も吸い上げられるよう工夫しながら、基本理念の実現を目指してまいります。</p>
43	<p>計画本編 P. 17  <b>■課題「⑤先進的な文化コンテンツの創出につながる環境が未成熟・発信力の不足」</b>において、「文化芸術のイベント等を通じて仙台の魅力を発信し」とあるが、仙台は好きだけれど、近年はどこにでもあるチェーン店が軒を連ね、既視感を覚えるような地方都市のような街になってきていると感じ、それがとても寂しい。仙台の魅力は、正直よく分からない。国内外にアピールするのであれば、余所でやっていないもの、一部の人に愛されているもの、そういうものを対象とした企画を、人を集めるためのことを行うのが良いのではないかと思う。大きなイベントをドン！と行うのではなく、いつもどこかで何かが行われている、という方法も良いのではないか。</p>	<p>本計画の目指す姿5に「文化芸術によって都市の個性が磨かれ、人を惹きつけ躍動するまち」を掲げているところであり、「仙台ならではの」文化資源、コンテンツを大切に、効果的な発信に努めてまいります。また、ご指摘のとおり、大きなイベントだけではなく、小さな活動や取組みも大切に、様々な創造的な活動が活発に行われるよう、多様な側面から支援を行ってまいります。</p>
44	<p>「仙台」という街の性格や特徴、長所や短所等を皆と話してみたり、アンケートを取ってみたりしたらおもしろそう。そこから方向性や作戦が立てられることもあるかと思う。</p>	<p>本計画の進捗管理において、市民や文化芸術関係者の皆様の視点を入れた評価、点検を実施することとしており、今後、そうした場等を通じて、ご提案のあった事項も含め、皆様と議論を深めてまいりたいと考えております。</p>

NO.	ご意見の概要	本市の考え方
45	<p>「劇都仙台」と紹介されているが、99年のピーク時に比べ、仙台市の都市個性を表すものとは程遠い現状にあると現場にいると感じる。現場が胸を張って「劇都仙台」と名乗れるような施策・取り組みを期待したい。</p>	<p>「劇都仙台」について、本市の都市個性としての発信を強化するとともに、市民の演劇の鑑賞、参加の機会の充実や舞台芸術の担い手の育成に資する事業等、各般の取り組みを進めてまいります。</p>
46	<p>「基本施策⑨」について。 「楽都仙台」「劇都仙台」の両取り組みが並列的に記載されているが、「楽都仙台」と「劇都仙台」の予算配分には大きな差がある。また、主な取り組みの中に「仙台フィルハーモニー管弦楽団の支援」とあり、プロの音楽家を仙台市で支えるということを長年されているにも関わらず、「劇都仙台」においてプロの実演家を同様に支えるということがなされていない。規模感に大きな違いがあっても構わないと思うが、「劇都仙台」においてもプロの実演家を支える取り組みを入れ込まないと平等感に欠ける印象がある。</p>	<p>基本施策③に掲げた、「公演・展示活動への助成」や、基本施策④に掲げた「地域の社会課題と向き合う文化芸術活動に対する助成」を通じて、広く一般に鑑賞・参加機会を提供し、地域の文化芸術環境の活性化やまちの魅力向上に資する事業等を支援してまいりたいと考えております。</p> <p>また、10-BOXを拠点とした「劇都仙台」の各般の取り組みを通じ、市民が身近に演劇に親しめる環境づくりを進め、また舞台芸術の担い手の育成に努めてまいります。</p>
47	<p>「基本施策⑩」について。 基本的な考え方の中に、「東北圏における美術・映像・デザイン・メディア文化の拠点」と書かれていることがとても良いと感じた。仙台市内だけではなく広域的な活動や連携が生まれるきっかけになると感じた。例えば、東北芸術工科大学や秋田公立美術大学、青森公立大学国際芸術センター青森(ACAC)などと連携し、学生が卒業したあとの活躍の場や機会をつくることで、卒業後も東北圏に残りながら活動ができることになったり、活躍の場が増えることで移住者が増えることにつながったりするのではないかと感じた。</p>	<p>基本施策⑥において、大学や地域の人材等と協働し、若い世代のアーティストの発表・活躍機会の創出につながる新たな取り組みについて検討を進めることとしております。</p> <p>今後も、せんだいメディアテーク等の事業を通じて、東北と全国をつなぐ取り組みを進めてまいります。</p>

■目指す姿1～5を横断する施策に関するもの(26件)

NO.	ご意見の概要	本市の考え方
48	<p>新たに整備する音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点の複合施設について、「整備検討に要する期間を助走期間と位置づけ、先</p>	<p>本市といたしましても、複合施設の先行事業につきましては、開館後の事業や市民の活動に密接に関わるものと認識しております。</p>

NO.	ご意見の概要	本市の考え方
	<p>行事業を実施」とあるが、この先行事業は、開館後の施設がどのように利活用されていくのかを左右する非常に重要な意味を持つものと考えられる。よって、開館前のプレ事業として多くの市民が関わる先行事業を展開していく必要があると思う。しっかりとした助走から確実にテイクオフさせるとともに、先行事業を対外的な範として誇れるものにして頂きたい。</p>	<p>市民の皆様にご参加いただき、本施設での活動像をイメージしてもらえよう事業とすべく検討してまいります。</p>
49	<p>新たな複合施設の整備に伴う周辺の渋滞対策について。</p> <p>駐車場の入り方について、右折入庫に限定等といった対策を考えているかと思うが、車両が集中した場合、一台一台入場ゲートバーが下りる時間もあるため、渋滞は必ず発生する。また、駐車場が満車となれば駐車場を待つ車列が発生するものと思われるが、近くに誘導可能な駐車場がない。車両を誘導して渋滞を解消することが不可能な立地にある状態での対策を教えてください。現在、過疎となっている川内公務員住宅の建て替えがあり、昔のような入居に戻った場合、往来する車の量はとてつもなく多くなるものと予想される。</p>	<p>敷地内に一定の駐車場を整備する予定ですが、大型公演開催時などにおいてはできる限り公共交通機関等で来場いただくよう誘導していくことが重要であると考えており、効果的な呼びかけ、情報提供のあり方を検討してまいります。</p> <p>なお、交通渋滞対策等の回遊性向上については青葉山エリアにおける課題であると認識しており、今後エリアの関係機関、団体等との連携のもと、検討を進めてまいります。</p>
50	<p>新たな複合施設の整備に伴い駐車場が不足することによる周辺の路上駐車及び東北大学や川内公務員住宅等の敷地の迷惑駐車対策について。</p> <p>県外からの旅行者などは土地勘が無く、ナビを使って来るため音楽ホールの駐車場目当てに来ることが予想される。近くに有料駐車場が無いが、ご年配の方や小さな子供がいたらなおのこと、町中に戻って地下鉄で来るということをするのかどうか疑問である。敷地の広い東北大学のスペースや誰でも入れる川内公務員住宅の空いているスペースに停めるという可能性も考えられる。施設利用者と地域住民とのトラブル防止策を考えてほしい。</p>	<p>駐車場に関する考え方はNo. 49に記載のとおりとなります。</p> <p>違法駐車対策等につきましては、必要な対応策を適宜検討してまいります。</p>

NO.	ご意見の概要	本市の考え方
51	<p>新たな複合施設の整備予定地である青葉山交流広場があることで開催できていた以下のイベント等の中止による地域活力低下について、考えを教えてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来場者駐車場が無くなるため、国際センター展示棟で開催されたガスフェア等の規模のイベントの開催が難しくなる。</li> <li>・G7仙台科学技術大臣会合との同時開催のパネル展示を実施した実績のある国際センターのイベントで、大規模な国際会議が開催された時等で駐車場が無く、参加者や運営者の利便性が損なわれる。</li> <li>・餃子フェアなどのイベントが開催できなくなる。周辺には大学生が多く居住するため、小イベントは成功しやすい。東北大学祭の賑わいは相当なものであり同様のイベントを開催するには最良の場所である。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の検査場となった場所だが、同様の感染症が発生したときに利用できる場所が無くなる。仙台市中心部から近く、車に乗った状態でのドライブスルー検査ができる規模の駐車場はここ以外無い。</li> </ul>	<p>本市では、令和5年3月に「仙台・青葉山エリア文化観光交流ビジョン」を策定し、青葉山エリアの価値や魅力、回遊性の向上に向けた方向性等をお示しし、本市全体における交流人口の一層の拡大を図ることとしております。</p> <p>本ビジョンの実現に向けて、新たな複合施設におきましても、屋外広場など交流促進のためのスペースを設ける予定であり、エリア全体の活性化につながる施設としてまいります。</p>
52	<p>新たな複合施設の整備に伴い青葉山交流広場が無くなることで、駐車場代としての収入が無くなることについて、考えを教えてください。</p>	<p>青葉山交流広場は、2,000席規模のホールを兼ね備えた複合施設の立地場所として生まれ変わるようになりますが、多彩なイベントを開催することが可能な施設とすることで、これまで以上に多くの方が訪れる場所になるものと考えています。杜の都の新たなシンボルとして、経済効果や様々な社会的価値を生み出せる施設となるよう取り組んでまいります。</p>
53	<p>新たに整備する音楽ホールの席数を2,000席とすることで開催可能となる公演や大会の主なものについて、教えてください。また、稼働率をあげるための秘策や2,000席が埋まる魅力的な公演の誘致方法について教えてください。</p>	<p>音楽ホールにつきましては、著名なオーケストラやオペラ、バレエの公演や合唱や吹奏楽の大会など、2,000席規模のホールがないために実現できなかった多様な実演芸術の活動・鑑賞を可能にし、仙台・東北の文化芸術を牽引する拠点を目指しております。館主催の公演のみならず、他の文化施設との共同企画制作などにより、単館では</p>

NO.	ご意見の概要	本市の考え方
		<p>難しい制作活動などにも取り組んでまいります。</p> <p>一方で、本複合施設は多様な市民の活動にも活用いただきたいと考えており、稼働率向上のためにも、入場料や使用する客席規模に応じた段階的な使用料を定めることなどを検討しております。</p>
54	<p>なぜ国際センター駅北側に音楽ホールを建設するのか。</p> <p>過疎が叫ばれる泉地区や東西線が開通した卸町地区や荒井地区での建設のほうが駐車場も建設する土地も周辺商業施設や飲食場所も有利に思える。例えばイズミティ21の建て替えや徳洲会病院跡地に建設など泉地区の起爆剤となればアリオ仙台泉が閉店しなくても良くなるのではないか。</p>	<p>青葉山エリアは仙台のはじまりの地であり、文化・歴史・学術資源や自然環境に恵まれた本市の象徴的な場所です。本複合施設は、都市の新たな魅力の創造・発信を担う拠点であり、震災からの復興のシンボルとなる拠点でもあるため、象徴的なこのエリアは整備にふさわしく、同時に本複合施設の整備によってエリア一帯の特徴や魅力がより一層引き出されるものと考えております。</p> <p>また、地下鉄東西線で仙台駅から3駅という優れたアクセス性を有する点や、様々な周辺施設との相乗効果が期待できる点も重要です。</p> <p>こうした特性や将来性を鑑み、本複合施設の立地場所として最適地であると判断したところです。</p>
55	<p>既存施設を利用する可能性について教えてほしい。</p> <p>国際センター西側には東北大学が所有する「川内萩ホール」があり、音響を整備し一般の方も利用できるようになっている。新たに音楽ホールを建設するのではなく「官・学・民」が一体となったプロジェクトに変更することはできないか。</p> <p>現在の市民会館、戦災復興記念館は両方とも展示室、音楽ホールの設備を備えた施設だが、今後どうなるのか。仙台市の上杉分庁舎のような無用の空間があるが、音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点として、建て替えなどをおこない効率よく土地を利用する方法で、その役割を担うことができ</p>	<p>本複合施設には、2,000席のホールだけでなく、一連の創造プロセスを支える文化芸術の総合拠点として、様々な諸室が必要となります。川内萩ホールはこうした諸室は有しておらず、また、一義的には大学施設であり文化芸術以外の利用もあるため、本施設とは性格の異なるものと考えております。</p> <p>市民会館や戦災復興記念館につきましては、「音楽ホール整備に伴う市内ホール施設の体系の整理（令和2年11月）」において、施設の老朽化等の状況を踏まえ、また、両施設が担ってきたホール機能の役割は音楽ホールの大小ホール等で代替が可能と考えられることから、会議室等の諸室機能や戦災復興記念館の保存・展示機能の今後や運営等について別</p>

NO.	ご意見の概要	本市の考え方
	<p>るようになるのではないか。</p>	<p>途検討することを前提に、音楽ホール整備後は、施設の更新を行わない方向での検討が望ましいと整理しております。</p> <p>なお、これらの敷地は面積や諸条件上、本複合施設の建設用地とすることは困難であると考えております。</p>
56	<p>計画本編 P. 14 (9) 文化施設の整備に記載のある「既存施設の高い稼働率を背景とした予約の取りづらさ」と P. 16 の「公演場所や練習場所の確保に苦慮している」の削除及び同様の表現の削除を求める。</p> <p>高い音響設備が配備されている青年文化センターを例に挙げても高い稼働率とは言い難く、ホールで練習している人数から同表現が適切とは言えない。これまで学校の体育館で行われてきた中学校の合唱コンクールを平日昼間に行うことで稼働率は上がっているかのように見えるが、休日祝日の稼働率はどうか。どの団体がどの規模の公演で予約が取りづらい状況及び練習場所の確保に苦労が発生したのか、具体的に説明いただき、文言の削除と適正な表現に修正をお願いしたい。</p> <p>ちなみに青年文化センターの令和 5 年 12 月のシアターホールの利用は 1 日間、コンサートホールの利用は 2 日間だけである。この利用状況についての市の見解としての回答をお願いしたい。</p>	<p>青年文化センターを例に挙げると、令和 4 年度の施設の稼働率について、コンサートホールの稼働率は 90% を超え、シアターホールの稼働率は 75% を超えており、多くの方にご利用いただいているものと認識しております。</p> <p>さらに、抽選の倍率も恒常的に高い状況にあり、潜在的なニーズも高いものと見込んでおります。</p> <p>本計画および新たな複合施設の整備に際して実施したヒアリング調査やアンケート調査において、本市を拠点として活動する数多くの文化団体からホール施設の予約の取りづらさについて意見が寄せられたほか、特に土日祝日の場合は、平日よりもさらに予約が取りづらい状況にあるとのご意見をいただいたところです。</p> <p>施設の使用実績ならびに調査の結果を踏まえ、ご指摘のありました表現につきましては、現行どおりの記載といたします。</p>
57	<p>国際センター北側に音楽ホールの建設中止を求める。また、同規模の音楽ホールの建設計画も廃止してほしい。</p>	<p>本市では、長年にわたり多くの市民の皆様から 2,000 席規模のホール施設整備のご要望をいただいております。仙台国際音楽コンクールや市民主体の活発な活動など文化芸術面の蓄積、未来に向けた魅力あるまちづくりといった観点からも、本施設は整備が必要な施設であると認識しております。</p>
58	<p>計画本編 P. 14 に「本市がこれまで蓄積してきた文化資源や市民の力をより一層発展させる文化芸術の総合拠点を目指します。また、複合施設としては、文化芸術拠点、災害</p>	<p>駐車スペースにつきましては、敷地内に一定数整備する予定ですが、公演開催時などにおいてはできる限り公共交通機関等で来場いただくよう誘導していくことが重要であると考</p>

NO.	ご意見の概要	本市の考え方
	<p>文化拠点それぞれの特性やノウハウを融合させ…」とあるが、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複合施設というのであれば、それに見合っただけの駐車スペースも充実させてもらいたい。どこの施設も、多くの来場者があると軒並み満車になることが多い。</li> <li>・音楽ホールの設置に伴い、仙台フィルハーモニー管弦楽団が現在拠点としている日立システムズホール仙台から離れたとき、残されたこちらの施設はどのように発展していくとお考えか。</li> <li>・杜の都とうたっている定禅寺通境界から県民会館が移転することで、人の流れは大きく変わるだろう。すべてを複合施設へ引っ張っていくことが仙台の街を、文化芸術を発展させることになるのかどうか。文化芸術というのは、日常生活の中にあると思う。そう考えたとき、なにを「発展」させたいと考えているのかを知りたい。</li> </ul>	<p>えており、効果的な呼びかけ、情報提供のあり方を検討してまいります。</p> <p>日立システムズホール仙台につきましては、音楽ホール開館後も、多様な文化芸術の創造発信、市民の文化活動の拠点の役割を果たしていくものと想定しております。それぞれのホールには客席数などの違いがあることから、適切な役割分担のもと効果的・効率的な文化振興施策の推進を図ってまいります。音楽ホールは仙台の文化芸術の総合拠点として、活動を施設内で完結させることなく、まち全体に多様な社会的価値をもたらす施設を目指しております。幅広いフィールドで活躍できる人材を育成したり、様々な場所に出向くアウトリーチ活動を通してあらゆる人に文化芸術に触れる機会を創出したりするなど、文化芸術を介して人・文化・まちを育む施設となるよう、引き続き検討してまいります。</p>
59	<p>計画本編 P. 17</p> <p>「課題を踏まえた方向性」において、『文化芸術の総合拠点』及び『災害文化の創造拠点』となる新たな複合施設の整備検討を進め、ハード・ソフトの両面において、市民が愛着を持ち、市民の誇りとなる施設とすることを旨とする」とあるが、愛着を持つためには、おもしろい人が大事だと思う。</p>	<p>本複合施設が市民の誇りとなる施設を目指す上で、高い専門性を持つ人材が重要であると認識しており、早期の人材確保・育成に努めてまいります。</p>
60	<p>「4 重点プロジェクト」「③杜の都の新たなシンボルとなる文化拠点整備プロジェクト」について。</p> <p>主な取組みの中で、「機運醸成・開館を見据えたソフト事業の実施」が大切だと感じた。例えば芸術監督（あるいは館長）をどのように選出するのか、どのような芸術監督（館長）が求められるのかなどを市民と一緒に考える場であったり、新しい文化拠点の設置目的を共有し合う場を設けたり、建物の設計が始まる前に「どのようなソフト面が求められるのか」などの方向性を市民と一緒に考え、それが設計に反映されて</p>	<p>本複合施設が本市に新たな魅力と価値をもたらす拠点となるためには、多くの方々に身近な存在となり、気軽に訪れ、活動を応援したくなる施設にしていくことが重要であると考えております。</p> <p>設計プロセスと並行して、早い段階から運営方針の検討を進める予定であり、様々な市民の皆様のご意見を伺えるよう手法を検討してまいります。また、地域の様々な場所に出向いて機運を盛り上げるイベントを開催するなど、先行事業に取り組んでまいりたいと考えております。</p>

NO.	ご意見の概要	本市の考え方
	いくというようなソフト事業が早い段階から実施されると良いと思った。	
61	<p>中心部震災メモリアル拠点として本気でアピールしたい場合は、市役所新庁舎にその役割を追加すべきだ。そのことで新しい観光名所となり得るし、地下鉄利用の促進にもつながると考える。街の外れでは誰も来ない。震災復興記念館でさえあまり知られていない。仙台市の利益になるよう考えてほしい。</p>	<p>整備予定地である青葉山エリアは、文化・歴史・学術資源や自然環境に恵まれた本市を象徴する場所となっております。複合施設の整備によって、本エリア一帯の特徴や魅力をより一層引き出すことができること、また周辺施設との連携や相乗効果が期待できることなどから国際センター駅北地区を整備予定地に決定したところです。中心部震災メモリアル拠点が災害文化の創造拠点として、また文化芸術とも連携した事業展開により、市内外から人を呼び込むことのできる施設となるよう、地下鉄東西線で仙台駅から3駅という優れたアクセス性も生かしつつ、引き続き検討を進めてまいります。</p>
62	<p>計画本編 P. 16</p> <p>■課題</p> <p>「①興味関心から実際の鑑賞・活動につなげる方策の充実、アクセスの改善」において、「文化事業に関する情報の届け方を工夫する必要がある」とされているが、情報の届け方は、いつも苦勞している。意識はあるけれどまだ鑑賞したことがない、という方たちに情報を届けるためにどうしたらよいか、一緒に考えてほしい。</p>	<p>市民等が文化芸術に触れる機会や参加の機会を得られるよう、本計画の目指す姿1～5を横断する施策において、「効果的な情報発信の推進」を掲げております。効果的な広報展開および文化情報の入手に係る利便性の向上に向けた検討を進めてまいります。</p>
63	<p>基本施策③「市民の文化芸術活動支援」について、美術分野に限らず、活動の広報手段としてチラシやDMがよく利用されており、具体的な内容も記載されている。これらの設置場所の拡大・充実を望む。</p> <p>現状最も利用されていると思われるせんだいメディアテークでは、人目につく1階はカフェに任せられ、メインの2階では人通りの少ない場所に設置されており、あまり有効とは思えない。市内のギャラリーや専門店が減少しておりチラシ等を置くことが可能な場所も減少しているため、市内の各文化施設や地下鉄駅等にチラシ等を配架する場所を確保</p>	<p>各文化施設等において、様々な文化芸術活動のチラシの配架等を行っているところですが、市民等が文化芸術に触れる機会や参加の機会を得られるよう、ご指摘のあったチラシの配架場所も含め、文化芸術に係る情報の効果的な発信について検討を進めてまいります。</p>



NO.	ご意見の概要	本市の考え方
	<p>することで活動の広報支援が可能になると考える。</p>	
64	<p>計画本編 P. 16</p> <p>■課題</p> <p>「④活動する場の質・量の不足と老朽化」において、「市内の主要文化施設の老朽化が進む」とあるが、文化芸術に関わるすべての企画が大規模なものとは限らない。むしろ定期的に利用している施設の、「このスペースでなにかやってみよう」という愛着のような声も耳にする。そうした現場で起きているアクションにも柔軟に対応してくれると嬉しい。老朽化だけではなく、借りる側の用途も時代とともに変わってきていると思う。個室を好む方だけではなく、少し開かれた踊り場やエントランスを好む方もいる。</p>	<p>文化施設の踊り場やエントランス等の貸出施設ではない共用スペースにつきましては、他の利用者への配慮や事前の周知、使用料の考え方など、様々な課題がございますが、利用される方々のご意見を伺いながら、文化芸術活動の場の充実に向けて努めてまいります。</p>
65	<p>障害を持つ子どもたちの中には、重症心身障害児という、知的機能と運動機能のどちらも重度に制限される状態の子どもたちがいる。このような子どもたちは自分の足で歩くことや立ち上がることが出来ず、移動には車椅子を使い、誰かに動かしてもらう必要がある。車椅子で出かけることが出来れば障害があっても芸術に触れ、刺激を受け、発達が促される機会になる。</p> <p>しかし、劇場を利用するためには車椅子ごと乗れるリフト付きの大型車両が駐車出来る大きさの駐車場が必要で、現在市内にそのような駐車場がある劇場がなく、利用することが出来ない。「いろいろな障害があっても参加したいイベントに参加できるよう環境づくりを進めていく」という案の中に、リフト付き大型車両の規模の福祉車両が駐車できるよう検討して頂けるよう、お願いしたい。また、重度重複障害のある子どもたちは他者とのコミュニケーションなど外的刺激への反応が乏しく、どんなことを投げ掛けてもわかっていないのではないかと思われがちだが、長期間に渡り反復して関わり続けることで固有の反応が見えてくる。定型発達の子ど</p>	<p>本計画においては、目指す姿1～5を横断する施策に「文化施設のバリアフリー化の推進」を掲げ、「仙台市ひとにやさしいまちづくり条例」に基づき、既存施設については改修の機会等を捉え、新規施設については整備基準に則った整備によりバリアフリー化を進めることとしております。</p> <p>いただいたご意見も踏まえながら、重度の障害をお持ちの方も参加したい文化イベントに参加することができるような環境づくりに努めてまいります。</p>

NO.	ご意見の概要	本市の考え方
	<p>もたちと同じく、外的刺激を受けることで成長、発達し続けることが出来るが、そのための環境づくりが必要である。例えば横になっている状態では寝てしまう子どもも、からだの変形や拘縮を無理なく支持し、座位保持が出来ると周囲へ関心を向けることが出来る。このように、個人の固有の姿勢を保持するような環境を作り、例えば舞台芸術を楽しむ機会を作るためには、既存の劇場のような椅子が並ぶ客席ではかなえることが出来ない。平らで広いスペースに、固有の姿勢保持が出来るようなクッションや座位保持椅子などが置かれ、自由に使用することが出来るような客席の劇場があれば、子どもたちの興味関心を広げることが出来る。また、気軽に劇場を訪れることが出来、継続、反復して長期間に渡り外的刺激に触れることが可能になる。ぜひ、このような劇場を作って頂きたいと思っている。</p>	
66	<p>「市」と「市民」を繋ぐいくつもの中間支援組織が仙台の街にはいくつもあり、基本計画ではあまり言及されていないが、そのような組織との協働がこれからも必要と感じる。アーティストを育てる以上に、コーディネーターの育成というのには時間と経験が必要なものと考えている。コーディネーターの育成に関して、もう一步踏みこんだ仕組みづくりを提唱してほしい。</p>	<p>本計画においては、重点プロジェクト①に「担い手の育成と活動環境の向上に向けた検討」を掲げております。アーティストや企画制作者、コーディネーター、舞台技術者等、多様な人材が本市を拠点に活動を継続できるよう、その育成と活動環境の向上に係る仕組みについて、今後、検討を進めてまいります。</p>
67	<p>「文化芸術を担う担い手」として、アーティストだけでなく、文化施設を運営する団体職員のケアも必要だと思われる。新規スタッフ研修の充実、新規スタッフのアイデアや企画が尊重されるよう、管理職のスタッフが企画の中核を担うことがないような体制を整えるなど。</p>	<p>本市といたしましても、本市の文化施設において主に運営を担う外郭団体職員の人材育成は、大変重要であると考えております。豊富な知見やネットワーク、ノウハウが若手職員にも引き継がれ、柔軟な発想やアイデアが生かされるような体制づくりに努めてまいります。</p>

NO.	ご意見の概要	本市の考え方
68	<p>目指す姿1-5を横断する施策と取組みにおいて、「担い手の育成と活動環境の向上に向けた検討」が入っているのがとても良いと感じた。社会課題と向き合う文化芸術活動や、文化芸術による社会包摂に係る取組みにおいては、様々な部署や団体などを横断的な連携を伴う必要がある。それには様々な分野の橋渡しをするコーディネーターの存在や、多種多様な活動をする団体とのネットワークが欠かせないとする。仙台市が不足しているコーディネーター等担い手の育成等に係る仕組みをしっかりと検討し、様々な活動主体の情報交換の場を構築することで、今後ますます増えるであろう文化芸術による社会包摂の取組みが可能になると感じる。</p>	<p>本市といたしましても、様々な主体間の連携を橋渡しするコーディネーターの役割は、今後ますます重要になるものと認識しております。</p> <p>コーディネーター等の育成の仕組みの検討については、重点プロジェクト①に掲げた「担い手の育成と活動環境の向上に向けた検討」において、進めてまいります。</p>
69	<p>「基本施策⑥」について。</p> <p>主な取組みの中で、「若い世代との協働による新たな取組みの検討」とあり、その中で「若い世代のアーティストの発表・活躍機会の創出」とあるが、P16「第2章 仙台市の文化芸術の現在地」3「文化芸術面の強み・個性、課題と今後の方向性」の課題③に書かれている「コーディネートする人材の不足」を解消するために、若い世代のコーディネーター人材育成についても、この中に盛り込まれた方が良いと感じた。</p>	<p>本市といたしましても、様々な主体間の連携を橋渡しするコーディネーターの役割は、今後ますます重要になるものと認識しております。</p> <p>コーディネーター等の育成の仕組みの検討については、重点プロジェクト①「文化芸術の担い手を育む協働プロジェクト」に掲げた、「担い手の育成と活動環境の向上に向けた検討」において、進めてまいります。</p>
70	<p>東京や他地域の美大を卒業し、東京などで活躍していたアーティストのUターンの方が活躍できる場が仙台にはあまりなく、その実績や活動を活かしきれていない。このことは今後仙台に帰ってきたいと思っているアーティスト等にも影響を与えており、仙台に帰りたいが帰れないという状況がある。そのような仙台を離れていたアーティストにおいては、仙台でのアートコミュニティとのつながりが少ないため、アーティストの支援だけでなく活躍できる現場・コミュニティを安定・継続して運営できるようにしてほしい。</p>	<p>重点プロジェクト①に掲げた「担い手の育成と活動環境の向上に向けた検討」において、アーティストやコーディネーター等の多様な人材が本市を拠点に活動を継続できるよう、その仕組みについて検討を行うほか、市内を拠点に活動する活動主体同士の情報交換の場の構築についても検討してまいります。</p>

NO.	ご意見の概要	本市の考え方
71	<p>P14「(9) 文化施設の整備」において、「予約の取りづらさ」が課題としてあがっている。これはハード面の問題だけでなく、予約システムの課題でもあると感じている。また、施設職員が臨機応変に使用者の状況を把握しながら、人間的に暖かいサポートをしていただき、施設によっては気持ちよく使用できている面もあると感じている。ハード面だけでなく、そこで働く人の大事さも触れていただけると「【目指す姿2】多様な文化芸術活動が展開され、その担い手が育まれるまち」に繋がって良いと感じた。</p>	<p>既存施設の高い稼働率を背景とした予約の取りづらさは、市民による文化芸術活動が活発に行われる中、大きな課題であると考えております。いただいたご意見につきましては、今後の文化施設環境の充実に向けた取組みにおいて、参考とさせていただきます。</p>
72	<p>物価が上がり、税金も上がり、生きているだけで精一杯の昨今、行き過ぎた資本主義の前に市民主導の創造活動は息も絶え絶えである。会場使用料と付帯設備使用料は極力安くしていただきたい。</p>	<p>公共の施設においては、適正な受益者負担の考え方が基本となりますが、目指す姿1～5を横断する施策において、「担い手の育成と活動環境の向上に向けた検討」を掲げており、多様な人材が本市を拠点に活動を継続できるような環境づくりに努めてまいります。</p>
73	<p>基本施策①「文化芸術に親しめる環境づくり」について、私が知る限りこの20年間で仙台市内の美術専門店やギャラリー等の作品発表の場が激減している。空間は存続していても展示貸出を辞めてしまっている例もある。また公共施設においても今後、市民会館や戦災復興記念館等の廃止によって利便性の高い中心部から制作や展示といった活動の場が少なくなってしまう。今後も既存の施設での更新工事などによる休館等が予想され、市民の美術活動の場は常に不足している状況であり、支障をもたらしている。計画策定に当たってはこのような現状を調査してもらいたい。</p>	<p>本市では、「仙台市公共施設総合マネジメントプラン」に基づき、文化施設の計画的な修繕を進めているところですが、ご指摘の点も踏まえ、同一目的の施設の休館時期の重複を可能な限り避ける等、配慮してまいります。また、市民ニーズを踏まえた将来にわたる施設環境の維持発展のための検討を続けてまいります。</p>

■計画全体・その他に関するもの（34件）

NO.	ご意見の概要	本市の考え方
74	進行管理については、「必要に応じて見直しを実施する」等、見直しを前提にすると分かりやすくなると思う。	各関係者の役割については、本計画の「推進体制」の図において表したところです。ご指摘の点を踏まえ、第5章「計画の推進」
75	第5章の推進体制で示した「推進会議」を十分機能させることができれば、今後、熱い文化芸術活動の推進につながる可能性はあると思う。他の自治体の計画にもあるように、関係者、市民、経済界の役割を示し我々の計画であるという実感がわくよう工夫をお願いしたい。 進捗管理を、「庁内推進会議での進捗管理」「また市民関係者の視点での評価・点検する」の記述には曖昧さを感じる。「市民、関係者、行政が協力して進捗状況をまとめ、情報共有、一次評価」⇒「市民、関係者、行政、専門家による審議会のようなもので点検、本評価、計画変更」⇒「次期計画策定」のように、市民、関係者等が大きく関わることを明確にしたほうが良いと考える。	「2進捗管理」において、市民や文化芸術関係者等の視点を入れた評価・点検を実施することに加え、「評価内容については、次年度の取り組みや次期計画策定時の検証に生かします」と追記いたします。
76	各基本施策が並列的に記載されているため、計画期間の5年間の中で何を、いつから、いつまでに、どうなるのかが可視化できない。目標達成に向けて、各施策について5年間の中でどのように進められるのか、年次計画的なものが示されるとより理解しやすく、進捗管理も容易になるのではないかと思う。	本計画においては、5つの目指す姿の実現に向けて、計画期間の5年間の中で重点的に取り組むものを4つの「重点プロジェクト」として掲げたところです。また、本計画は本市の文化芸術振興の基本的な方向性を示すもので、年次計画までお示しするものではありませんが、個々の取り組みについては、毎年度実績を把握しながら、計画的に進めてまいります。
77	「市民や文化芸術関係者等の視点を入れた評価・点検を実施」とあるが、市民や文化芸術関係者等のメンバーも、今後設置するとされている「推進会議」のメンバーに加えるべきと思う。指標の測定に際しても、市民や文化芸術関係者等の肌感覚は重要だと思う。	「推進会議」は、仙台市の庁内の関係各課で構成し、計画の進捗管理、情報共有及び課題への対応についての協議・検討を行ってまいります。また、市民や文化芸術関係者等の視点を入れた評価・点検については、推進会議とは別の形での実施を想定しております。そこで寄せられた意見については、推進会議の場において共有し、次年度の取り組みや次期計画策定の
78	計画の推進を担う「推進体制・進捗管理」が重要。ここを担う、専門家、協議会（ balan	

NO.	ご意見の概要	本市の考え方
	<p>スのとれた)、推進体制が重要。また、透明で民主的な方法でこのメンバーや運営方法を構築していただきたい。</p>	<p>検証に活かしてまいりたいと考えております。</p>
79	<p>「第5章 計画の推進」「1 推進体制」について。 設置される「推進会議」がどのようなメンバー構成になるのかが気になった。庁内関係各課からの代表者のみなのか、それとも懇話会のように外部有識者が入るのか、計画期間の5年間をしっかりと把握・点検・評価をすることが可能な人なのか（途中で異動などで外れないのか）、5年後・10年後を見据えた若者世代の視点が入るメンバーが選出されるのかなど、中長期的に考えたときに「推進会議」の在り方がとても重要だと感じている。そのあたりをもう少し具体的に表記した方が良いのではないかと感じた。</p>	
80	<p>仙台の文化芸術の礎には「伊達な文化」が底辺に流れているような気がする。文化人でもあった伊達政宗公をはじめ、代々の藩主が築き上げた文化は、有形無形に市民の生活の中に根付いているのではないかと感じている。仙台の文化がそうした礎の上に立っていること、仙台の文化にはそうしたDNAが根底に流れていることを計画のどこかに盛り込む必要があるのではないかとと思う。</p>	<p>伊達政宗公をはじめ、歴代の藩主が築き上げた文化が礎となり、本市の幅広い分野において文化芸術に係る取組みが活発に行われている今日があるものと認識しております。ご指摘の点を踏まえ、基本施策⑦の基本的な考え方に、「伊達な文化」に関する記述を加えます。</p>
81	<p>この計画に携わる業界への負担や支援について計画提案がないことが気になる。 仙台市で文化芸術に携わる方から、厳しい労働環境による健康被害が常態化しているという話も耳にしたため、業界の環境改善や負担軽減についても具体的に立案して頂きたい。 個人的には音楽分野への偏りが気になるが、文化芸術の普及は都市の発展にも必要不可欠と思うので、市民のニーズに合った費用対効果の高い施策を進めていただきたい。</p>	<p>目指す姿1～5を横断する施策において、「担い手の育成と活動環境の向上に向けた検討」を掲げており、今後、多様な人材が本市を拠点に活動を継続できるよう、その育成や活動環境の向上に向けた検討を進めてまいります。 また、市民や文化芸術関係者等の視点を入れた本計画の評価・点検、各文化イベントにおけるアンケート等により、市民のニーズの把握に努めてまいります。</p>

NO.	ご意見の概要	本市の考え方
82	<p>基本施策のうち、②「文化芸術による社会包摂に係る取組みの充実」及び⑤「子どもの文化芸術に親しむ機会の充実」の二つが最も重要な施策であると思う。「多様な個性が輝き、まちの未来を拓く」という基本理念の実現のためには、この二つの施策のより重点的な取組みが肝要だと思う。施設側での待ちの姿勢を転換し、施設側から外に出て、市民に会いに、市民の中に入っていく必要があると思う。</p>	<p>基本施策②の「地域の社会課題と向き合う文化芸術活動に対する助成」と、基本施策⑤の「学校、保育所等へアーティストを派遣する取組み」は、いずれも「重点プロジェクト」に掲げたところであり、基本理念の実現に向けて、一層の取組みの充実を図ってまいります。</p>
83	<p>市内の各区に文化協会があり、区役所が活動を支援しているが、そのことが一切記載されていない。本市の文化活動を支える主要な団体であり、きちんと明記すべきである。</p> <p>本計画の策定にあたりヒアリング対象としていないのはなぜか。より幅広い意見を取り入れるためにもヒアリング対象とすべきである。</p>	<p>本市といたしましても、市民主体の文化芸術活動およびその担い手は本市の文化芸術を支える貴重な存在であるものと認識しております。本計画は本市の文化芸術振興の方向性を示すものであり、個々の活動団体名を明記はいたしません。基本施策③の基本的な考え方について、「市内各所で行われる地域に根ざした多種多様で厚みのある文化芸術活動が本市の文化芸術面での特徴の一つ」と修正いたします。</p> <p>また、本計画の策定にあたり実施したヒアリング調査については、全ての文化芸術団体の皆様に対して実施することが難しいことから、一定程度対象を絞ってヒアリングの機会を設けたところです。今後、計画の推進に際しては、市民や文化芸術関係者等の視点を取り入れた評価・点検を実施することとしており、そうした場等を通じて、幅広くご意見を伺ってまいります。</p>
84	<p>素晴らしい計画だと思う。ぜひ実行頂きたいと思う。</p> <p>あえて言うならば、地下鉄の駅等で音楽等の芸術を行えるようにしてはどうか。</p>	<p>目指す姿1～5を横断する施策の「文化施設環境の充実」において、文化芸術に係る取組みを文化施設のみならず、公共空間も利活用しながら行っていくこととしております。ご提案のように、地下鉄の駅等も活用しながら、文化芸術に係る取組みをまち全体に波及させ、市民が日常的に文化芸術に親しめる環境づくりにつなげてまいります。</p>

NO.	ご意見の概要	本市の考え方
85	<p>県との関係で何かと課題が指摘される仙台市の基本計画に、県との関わりについて何ら記述がないのが気になる。関連して、仙台市の文化芸術の各種施策は市域を越えて広域に及ぶものが多くあり、その点をより意識した記述にしたら良いと思う。</p>	<p>本計画の推進にあたっては、県を含む関係機関等との連携を図ってまいります。ご指摘を踏まえ、第5章「計画の推進」「1 推進体制」の図において、関係機関に「県・他市町村」を、その役割に「施策の効果的な推進」を加えます。</p> <p>基本理念では、「創造的な取組みの輪をここ仙台から世界に広げていくことで、多様な担い手が世界中から集い交流し、より大きく、豊かな「杜」に育っていくものと考えます」としており、市域にとどまらない広範な視点をもって、各施策に取り組んでまいります。</p>
86	<p>「あらゆる人」という言葉が何か所かに出てくる。計画の性格上、一人も取り残さないという意味で使われているとは思いますが、やはり書きすぎではないかと感じる。何か別の表現はないものか。</p>	<p>基本理念の実現に向けて、あらゆる市民に文化芸術を享受する機会や自由に創造する機会がひらかれることを目指すという視点を重視し、そのような記載としております。</p>
87	<p>「あらゆる人」「ひとりひとりに」という言葉には、そこにホームレスの人は想定されているのか、等ツッコミを入れたくなる。</p>	
88	<p>計画本編 P. 15  <b>■強み・個性「①文化的な土台を有する」</b>において、「『楽都』『劇都』や、現代アートや映像メディアといった同時代の文化芸術に関する事業においてフラッグシップとなってきたせんだいメディアテークの取組み」とあるが、なぜメディアテークの名前だけが挙げられているのか。せんだい演劇工房 10-BOX や日立システムズホール仙台が上がっても良いのではないか。</p>	<p>せんだい演劇工房 10-BOX や日立システムズホール仙台の取組みは、「楽都」「劇都」に関連するものでございますが、市民主体のものや各区文化施設などの取組みも「楽都」「劇都」の推進に大きく寄与しておりますことから施設名は挙げないことといたしました。</p>
89	<p>計画本編 P. 15  <b>■強み・個性「④文化芸術に対する高い市民意識」</b>とあるが、意識は高くても実際に足を運んでいる市民、年齢層はどのようになっているのか。肌感覚としては鑑賞しているのは高齢な方が多い印象がある。そして、どのイベントも集客に苦労している。文化芸術が大</p>	<p>本計画策定にあたり実施した調査において、文化芸術の鑑賞率はジャンルにより異なりますが、全体としては10代20代で高くなっております。一方、認知や興味関心が実際の鑑賞行動に結び付いていない可能性をうかがわせる結果が出ており、興味関心から実際の鑑賞・活動につなげる方策の充実が必要と認識</p>



NO.	ご意見の概要	本市の考え方
	切だと考えている市民が多いのであれば、その人たちが文化施設に足を運ぶようになる仕掛けが必要なのではないか。	しております。文化芸術に触れる機会や参加の機会につなぐ第一歩となる情報発信の推進をはじめとした方策の検討を進めてまいります。
90	<p>計画本編 P. 16 ■課題</p> <p>「①興味関心から実際の鑑賞・活動につなげる方策の充実、アクセスの改善」において、「鑑賞・活動及び情報の入手に関する市民の多様なニーズを踏まえた取組みの強化が必要」とあるが、多様にしていくためには、マイナーなもの、マニアックなものを増やしていくのが良いと考える。すべての人に対応できるものは広くて浅く、おもしろいものにならないと思う。</p>	<p>「市民の多様なニーズ」には、鑑賞・活動したいジャンルの多様さはもとより、鑑賞や活動の条件（手頃な料金がよい・小さな子どもと一緒に楽しめること等）として望まれるものの多様さも踏まえる必要があるものと考えております。</p> <p>各文化イベントにおけるアンケート等を通して市民のニーズの把握に努め、今後の取組みの充実につなげてまいります。</p>
91	<p>計画本編 P. 17</p> <p>■課題「④活動する場の質・量の不足と老朽化」において、「多様な実演芸術に対応した大規模な会場が市内にないことから、全国を巡回する公演の機会損失や大規模な大会が開催できない」とあるが、会場が市内にないから、という理由と同時に、「仙台でやると集客が大変だ」というのはよく聞く話である。市民の文化芸術への意識をブラッシュアップする必要もあるのでは、と感じている。</p>	<p>本計画策定にあたり実施した調査において、文化芸術を鑑賞することや文化芸術活動を行うことが大切であると回答した割合は高く、文化芸術に対する本市の市民の意識は高い状況にあるものと認識しております。一方、認知や興味関心が実際の鑑賞行動に結び付いていない可能性をうかがわせる調査結果も出ており、興味関心から実際の鑑賞・活動につなげる方策の充実が必要と考えております。文化芸術に触れる機会や参加の機会につなぐ第一歩となる情報発信の推進をはじめとした方策の検討を進めてまいります。</p>
92	<p>一言で言うと、総花的な印象であり、「全ての文化振興をやる」というまとめ方になってしまっているように感じる。</p> <p>各所に「伊達の文化の継承」についての記載があり、能楽についても具体的な施策展開も記述されるなど、歴史的経緯を踏まえた計画の策定が志向されている点については、好感を持てるものだが、問題はその先、仙台市としてどのような文化都市を実現してゆくのかという方向性を絞り込むべき段において、「伊達の歴史的文化の継承」は矮小化されてしまい、他の文化振興策と同列に配されてし</p>	<p>本計画における文化芸術の範囲を、冒頭に掲げておりますが、その範囲は大変に広いものです。</p> <p>時代を代表する文化人でもあった伊達政宗公によるまちづくりや文化面での様々な取組みが、本市の豊かな文化の礎となっていることはもとより、様々な分野において多彩な文化芸術活動が行われてきたこともまた、今日の本市の豊かな文化を築く原動力となったものと認識をしております。そうした認識のもと計画全体を構成したものです。</p>

NO.	ご意見の概要	本市の考え方
	<p>まっている。</p> <p>文化は、それぞれの地域の特性や歴史的な経緯等をもってかたちづくられてくるものであり、総花的、あるいは金太郎あめ的な施策展開に留まってしまうと、文化都市仙台の個性は実現できない。仙台市の文化的な特異性は何か。まずこの点を明確にし、そこから文化都市仙台のあるべき姿を描いてゆくアプローチが必要であると強く思う。</p>	
93	<p>歴史と伝統があり、市民協働が盛んだと言われる仙台市の文化芸術活動。国際音楽コンクールやジャズフェスなど、評価の高い活動は、関係者、行政、市民、経済界、教育機関等の協力で世界から評価され、市民の誇りとなるよう更に磨き上げ、まちづくり（都市政策、観光、経済発展等）の大きな起爆剤としてほしいと思う。</p> <p>一方、課題のある項目（満足度が低い項目、客観的に見て遅れていると思われる項目、手つかずの項目など）にどのような姿勢で臨み、どのような成果を挙げ、文化芸術活動の推進、まちづくり（都市政策、観光、経済発展等）につなげていけるかが、それ以上に重要であると考えます。</p> <p>中間案は、現在仙台市が取り組んでいること、近い将来取り組むことの記述が中心で、このような観点で、長いスパンで取り組むべき課題、宿題を明確にし、議論を呼ぶかもしれない大胆な取組も覚悟をもって示すのが、他分野の行政計画とは性格が違う（違っていい）文化芸術分野の計画策定と思うことから、物足りなさを感じる。策定過程（懇話会の期間、回数、イベント）についても同様である。</p>	<p>本計画は市民意識調査や文化芸術活動団体等へのヒアリング及びアンケート調査等を踏まえ、本市の強み・個性や課題を整理し、今後の方向性や5年間で取り組む施策等をお示ししているものです。策定過程へのご意見に関しましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
94	<p>過去の歴史や経過も非常に重要と思う。仙台市史、県政史、教育関係の資料を参考に今回その概要を作成し、今後新ホールのアーカイブ機能や外郭団体の調査・研究機能強化の中で、充実したものにしていくというのも、仙台市の文化芸術の足腰を強くすることにな</p>	<p>本市がこれまで歩んできた歴史や文化等の資料は大変重要であると認識しており、基本施策⑧に「アーカイブの推進」を掲げたところです。いただいたご意見に関しましては今後の取組みの参考とさせていただきます。</p>

NO.	ご意見の概要	本市の考え方
	ると考える。	
95	<p>関係団体（者）と行政・外郭団体とのコミュニケーションを強くする工夫が必要と考える。仙台市にはかなり多くの関係団体（者）がいると思うが、関係はあまり深くないと感じる。単発のアンケートだけではなく、定期的（又は常時）情報交換、意見聴取を行う仕組みを考える必要性を感じる。行政や外郭団体の人材育成につながると思う。シンプルな形でスタートし少しずつ充実させるイメージである。5年後に県民会館、8年後に音楽ホールと懸案のハードが整備された後、市民、関係者に十分利活用してもらうことにも繋がると考える。</p> <p>結構活発な市内のイベントだが、「知らなかった」ということをよく聞く。仙台フィルや芸大早期プロジェクトなど価値あるイベントが数多くあるので、コミュニケーションを良くし情報共有がより進めば、集客につながると思う。</p>	<p>本市といたしましても、本計画の推進にあたり、関係団体等の連携は大変重要であると認識しており、情報共有やコミュニケーションの強化を図ってまいります。</p>
96	<p>学校の文化部活動の地域移行を進めるための環境整備や人材育成、市民センター単位のような、身近な地域での文化活動の振興、支援をどうするかなどについても課題として、検討を進める必要があると考える。</p>	<p>学校の文化部活動の地域移行につきましては、ご指摘をいただきました課題等も踏まえ、庁内関係各課や関係団体等と協議を行いながら、検討を進めてまいります。</p>
97	<p>「劇作家石川裕人記念室」の創設について。今年度10月7日～12月17日に仙台文学館にて、企画展「劇作家石川裕人～演劇に愛をこめて～」が開催された。在仙の作家が取り上げられたのは初めてということで市民の関心も高く、このような人物が仙台で活躍していたのを初めて知った、という声も多く聞かれた。</p> <p>石川裕人は劇作家・演出家として、仙台のみならず東北の演劇界を牽引してきた。彼が生涯で書き遺した戯曲は106本にもおよび、その地域に根差した生命力のある幅広い作品群は一つの財産であると思う。彼の作品は紛れもなく、「東北」という風土によって育まれたもので、演劇界における宮城の石川裕人</p>	<p>本市の文化芸術分野における先人の功績にまなざしを向けることは、将来に向けた創造の資源ともなるものと認識しております。</p> <p>ご意見を踏まえ、本計画の基本施策⑦において、主な取組みとして「先人の功績を顕彰する取組み」を追記いたします。</p>

NO.	ご意見の概要	本市の考え方
	<p>は、岩手における宮沢賢治に匹敵する存在になりうると確信している。そのような地域を代表する作家を、ひとつの文化財産として次世代へ繋いでいくべき作品群を、このまま埋もれさせてしまうのは残念でならない。</p> <p>石川裕人の作品に誰でも触れられる場所として、「劇作家石川裕人記念室」の創設を提案する。</p>	
98	<p>「文化芸術を鑑賞する」ことよりも「文化芸術を実践する」ことの方が、人はより幸福感を持つ、という話を聞いた。「ひとりひとりがよりよく生きる文化芸術の杜」を目指すならば、「文化芸術活動を行う市民の割合」の目標値を25%ではなく、30%を目指し、【文化芸術に取り組む事によって幸福度の高い街】を目指してみてもどうか。</p> <p>その為には、よりアウトリーチによる体験が重要となるほか、アーティストと市民が垣根無く協働できる機会の積極的な創出や、今後の少子高齢化社会に於いて、高齢者の方々へ「文化芸術体験」を通して生き甲斐を創るような取組・提唱もできるのではないかと。</p>	<p>本計画の推進にあたっての指標にかかる目標値については、計画期間が5年間であることに鑑み、設定しました。</p> <p>次期計画策定時には、いただいたご意見や、今後改定に向けて実施予定の調査の結果も踏まえ、適切な数値目標の設定に努めてまいります。</p>
99	<p>「第5章 計画の推進」「3 推進にあたっての指標」について。</p> <p>この意識調査は仙台市在住の方への調査にとどまっており、基本理念に書かれてある「ここ仙台から世界に広げていくことで、多様な担い手が世界中から集い交流し、より大きく、豊かな『杜』に育っていくものと考えます。」という部分に対して、検討が難しいのではないかと感じた。この意識調査に加え、文化芸術活動による交流人口や、仙台市で育成され国内外で活躍する担い手はどのような人がいるのか、参加機会が得にくい方や地域はどのくらいあるのかなど、「目指す姿」「重点プロジェクト」の成果が見えるような項目をしっかりと追加して欲しいと思った。</p>	<p>本計画の推進にあたって指標として掲げた3点の指標は、いずれも「仙台市文化芸術に関する意識調査」の調査項目から抜粋しておりますが、この意識調査の設問および選択肢は、文化庁が毎年実施する「文化に関する世論調査」をベースに作成しており、一定程度全国平均や大都市圏との比較ができるよう設計しております。</p> <p>なお、毎年度の各取組みの実施状況の把握に際しては、定量評価にとどまらず、定性的な側面もとらえながら、経年の動向の把握に努めてまいります。</p>
100	<p>「参考資料」について。</p> <p>各種調査の結果がありましたが、これに加え</p>	<p>毎年度の各取組みの実施状況の把握の際には、ご指摘のあった予算の状況も把握してま</p>

NO.	ご意見の概要	本市の考え方
	<p>て仙台市の文化関係予算の推移も入れて欲しい。昨年度予算から、この推進基本計画ができたことによってどのように予算編成が変化したのかなど、文章だけでは見えにくいと思う。また、本計画の文化芸術の範囲で規定されている分野において、予算の配分に著しい偏りは無いのか、重点項目にしっかりと予算が付いているのかなど、今後検討していく上でも大事な資料だと思う。</p>	<p>います。</p>
101	<p>アートによる共生社会の確立を目指している点が重要であり、障害のある人、次世代を担う若い世代に対しての充実した施策であることを評価したい。</p> <p>一方、就職氷河期世代のアーティストおよびその周辺のコミュニティへの施策も必要と感じた。つい最近、宮城県が就職氷河期世代を対象に行なった職員募集では500倍という倍率がニュースとして取り上げられていた。この世代のなかに、引きこもりや単身者、低所得者も多く、この世代を対象とした雇用や活動領域の活性化は、社会課題の側面からも重要である。</p>	<p>本計画において、就職氷河期といった特定の世代に限定した施策は設けていないところですが、文化芸術の担い手については、重点プロジェクト①において「担い手の育成と活動環境の向上に向けた検討」を進めることとしております。また、「目指す姿1」に「あらゆる人に文化芸術活動の参加機会が確保されること」を掲げており、個人が置かれる経済的な事情に関わらず、文化芸術に接する機会の充実を図れるよう各般の取組みを進めてまいります。</p>
102	<p>わかりやすい版について。</p> <p>12月に2回、対面式とオンラインで、計2回の「仙台市文化芸術推進基本計画中間案【わかりやすい版】」をみんなで読む会を実施した。対面式9名、オンライン6名の参加があった。その中で、「本編だと手を出すのに躊躇してしまうが、わかりやすい版が入口となって読むことができた」などの声をいただいた。</p> <p>本編、概要版だけでなく、わかりやすい版を作っただけは、より多くの方に読んでいただくためにとても良い取り組みだと感じた。</p> <p>わかりやすい版の中で、基本理念の「多様な個性が輝き、まちの未来を拓く ～ひとりひとりがよりよく生きる文化芸術の杜～」という言葉が書かれていないことが気になった。</p>	<p>本計画に関心をお寄せいただき、「読む会」を実施いただいたことに感謝申し上げます。</p> <p>いただいたご意見につきましては、本計画の完成版作成の際に併せて作成する「わかりやすい版」において、参考とさせていただきます。</p>

NO.	ご意見の概要	本市の考え方
	<p>わかりやすくした説明は書かれているが、この言葉も掲載したほうが良いと感じた。</p> <p>P6「⑤文化芸術の力でまちを豊かにすること」に、「せんだいメディアテーク」と、全体の中でここだけ具体的な固有名詞が入っていることに違和感を感じた。</p>	
103	<p>本計画における文化芸術の範囲について、「災害文化」という項目が入っていることが仙台市の独自性を感じ、良いと思った。仙台市の未来に限らず、他の土地で起こりうる災害に対しても動くことができるような広域的な「災害文化」と位置付けてもらえると良いと思った。</p>	<p>本市といたしましても、災害文化の概念は本市のみならず広く内外に普及すべきものと考えております。青葉山エリアに整備する複合施設の事業を通じ、市外各地と災害文化を通じた文化的ネットワークを形成することで、広域的な災害文化の創造・実装が図られるよう検討を進めてまいります。</p>
104	<p>せんだいメディアテークの取組みについて、言うは易しだが、現代アートはお金が掛かるもの。頑張ってください。</p> <p>「仙台市に税金払って良かった…」と市民が思えるように、芸術活動を通して還元していきたいもの。質の良い作品を創るよう、担い手の側も努力したいと思う。</p> <p>劇場で待っているだけでなく、アウトリーチして出会いに行くという方針は素晴らしい。</p>	<p>本市の今後の文化芸術振興施策の推進に対し、期待を寄せていただいているものと受け止めております。</p> <p>今後、市民および文化芸術関係者の皆様との協働により、より一層の施策の推進に努めてまいります。</p>
105	<p>「基本理念」について。</p> <p>「文化芸術は、人がよりよく生きる力の源であり、また人と人とが共に生きていくうえで大切なものです。」と明言されていることが素晴らしいと思った。昨今、文化芸術に限らずサービス重視・経済重視の傾向を個人的に強く感じているが、享受する人はもちろんのこと、提供する人もまた同じ人であり、どちらも欠かせない存在だと思う。働く人（提供する人）も大事にするということを、今後の文化政策に反映していくことができる可能性を感じた。</p> <p>「目指す姿1」について。</p> <p>コンサートや演劇等を観に行けるのは、概して、生活にゆとりがある人で、生活に困窮している方やその世帯の子どもなどは、特定の文化芸術に触れる機会が少ない印象である。</p>	<p>本市の今後の文化芸術振興施策の推進に対し、期待を寄せていただいているものと受け止めております。</p> <p>今後、市民および文化芸術関係者の皆様との協働により、より一層の施策の推進に努めてまいります。</p>

NO.	ご意見の概要	本市の考え方
	<p>「年齢や障害の有無、国籍等に関わらず、・・・」とあるが、文化芸術基本法第2条も参考にされ、P32「地域の社会課題と向き合う文化芸術活動に対する助成【新規】」の文章で使われている「年齢や障害の有無、国籍、経済的な状況等に関わらず、・・・」として、生活が厳しい方も含めてあらゆる人が多様な文化芸術に触れることができるような施策を積極的に展開して欲しいと思う。</p> <p>「4 重点プロジェクト」「①文化芸術の担い手を育む協働プロジェクト」について。</p> <p>主な取組みの中で、「担い手の育成と活動環境の向上に向けた検討」ということがとても素晴らしいと感じた。仙台市において舞台技術者は職業として確立しつつあると感じているが、アーティストや企画制作者、コーディネーターにおいてはまだまだ職業としては厳しい状況だと感じている。実験的に様々な仕組みを小規模で走らせてみて検討するなど、議論だけではなく検討を期待している。</p> <p>「4 重点プロジェクト」「②創造性をひらく子ども・若者プロジェクト」について。</p> <p>主な取組みの中で、「学校、保育所等へアーティストを派遣する取組み」が素晴らしいと思った。文化庁派遣事業の震災復興対応版において文化庁の担当外である保育所等や児童館も特例的に派遣先に認めてもらい、仙台市や宮城県では多くの応募があり、保育所等や児童館に大きなニーズがあることを知ることができた。ただ、今年度より派遣対象が通常版と同様に学校のみになってしまった。文化庁の枠組みでは派遣することができない「保育所等や児童館」に、今後も継続的にアーティスト派遣ができるように仙台市が動き出すということは、とても素晴らしいと思う。</p> <p>「基本施策①」について。</p> <p>主な取組みの中で、「各文化施設の取組みの充実」とある。重点プロジェクト①を「市民</p>	

NO.	ご意見の概要	本市の考え方
	<p>の文化芸術活動」、②を「次代の育成」、④を「市外、県外、海外からの訪問・観光」と捉えた場合、その全てを全ての文化施設がそれぞれ実施することは困難であり、職員の負担も懸念される。それぞれの文化施設が重点プロジェクトの主に何を担うのかなどの役割分担を定め、その担う重点プロジェクトに即した取組みに予算も人員も傾斜配分できるような指針を作れると良いのではと思った。「基本施策②」について。</p> <p>主な取組みの中で、「地域の社会課題と向き合う文化芸術活動に対する助成【新規】」に書かれている「外部の専門人材による伴走支援」はとても良いと思った。ただ、伴走支援は名前のとおり「常にそばにいる」ことが重要になってくるので、伴走支援ができる人を地元の中で育成していくということが長期的に見ても大事なのではないかと感じた。「基本施策⑧」について。</p> <p>主な取組みの中で、「地域文化アーカイブ事業」とあり、とても重要な取組みだと感じた。特に「災害文化」とも通ずるであろう震災関連の作品やプロジェクト等が数多くあり、それを収集・保存・資料化するだけでも大変な労力になると容易に想像できる。しっかりとした予算確保や人員配置などを含め拡充されることを期待している。</p> <p>「目指す姿 1～5 を横断する施策と取組み」について。</p> <p>「担い手の育成と活動環境の向上に向けた検討」がとても良いと感じた。令和 11 (2029) 年度に出される次の基本計画案を策定するチームを早々に作り、各取組みの実施状況を把握・点検・評価をしながら、次の基本計画に検討した取組みをしっかりと組み込めるような体制づくりを期待している。</p>	
106	<p>中間案ではこれまでの様々なヒアリングやイベントでの発言も明記され、計画策定のプロセスに取り入れられていることや、ダイバーシティとインクルージョンが改めて明記</p>	<p>本計画を策定することにより重点的に取り組むものについては「重点プロジェクト」として示し、新たに実施する取組みや拡充して取り組んでいくものについては、それぞれ「新</p>



NO.	ご意見の概要	本市の考え方
	<p>され、今後の仙台市における重点的なテーマになっていくことが感じられる。</p> <p>全体の印象として、この計画案を全て成果を伴いながら実現できたら、文化環境や実践はとて豊かになると思った。一方、あらゆる面で優等生的な計画になっており、これまで行ってきた様々な取り組みの総まとめのようにも感じられる。文化芸術に普段から携わっていない一般市民にとっては、この計画のどこが優れていて、どこが足りていないのか、判断することが難しいだろうと感じた。</p> <p>(その点、「わかりやすい版」があることは、そういった市民にも伝えようという姿勢が感じられる取り組みだと感じた。)</p> <p>そこで、これまで行ってきた取り組みと、今後の計画の中で新たに加わる社会の変化や状況を踏まえた取り組みが、区別できるように書かれていると、計画が推進されることで何が変化していくのか分かりやすくなると思った。</p>	<p>規」「拡充」の記載をしたところでは。</p> <p>計画の進捗管理において、市民や文化芸術関係者の皆様の視点を取り入れた評価・点検も実施することとしており、そうした場も活用しながら、本市が文化芸術の面で重視する視点を発信していけるよう努めてまいります。</p>
107	<p>このコメントは、文化芸術推進に関するアイデアや具体案ではなく、文化芸術を推進する世界観をイメージするために、あるいはまだ見ぬ暗闇を透視する暗視メガネとして、手にしていただきたい道具のようなものだ。</p> <p>豊かな芸術や文化が市民の幸福度を拡大し、よりハッピーな社会環境を実現する。そんなイメージのもとに、いろいろなアイデアが集まる。</p> <p>そのイメージやアイデアは場に集積され、集約されて、その材料を積み上げることができた環境ができた。そういうイメージだと思う。</p> <p>しかし、それは理想のピラミッド論だ。</p> <p>実際には強固な石積みのピラミッドではなく、あくまで理想であり、実態は風船なので、世間の意識という現実の重力に押しつぶされた形に潰れるだろう。</p> <p>それは、世間という「無意識的な意識」や日常的な行動面で働く重力エネルギーの法則</p>	<p>計画の推進にあたっては、日々活動の現場にいる市民や文化芸術関係者の皆様の視点も大切にし、ご意見も踏まえながら、次年度の取り組みや次期計画策定時の検証に生かしてまいります。</p> <p>また、費用対効果等の考え方のみにとらわれることなく、「本当の文化や芸術の本質」について、現場に立つ皆様とともに考えながら、より一層の文化芸術振興施策の推進を図ってまいります。</p>

NO.	ご意見の概要	本市の考え方
	<p>が作用している自然の形だ。</p> <p>「絵に描いたお花畑」は、現実にそのまま実現することはない。</p> <p>知る限り、どの自治体でも解決策が見つからないもどかしさを抱え、打開策が見えない。</p> <p>いきおい、お花畑を造花で装飾することになりかねない。</p> <p>思うに「ここ」にピラミッドを立てるんだ、という「この足元は常識である」と考えている「ここ」という場合は、あつて当たり前の上とか、基盤とか、大前提とか、あたりに立っているのだから誰も疑わない。</p> <p>しかし、あると思っている足元の床は幻かもしれない。</p> <p>その地面の床をぶち破らないと、本来作用するはずの、重力に逆らわないその先の実世界は見えない。</p> <p>日の当たらないその世界をのぞき込めば「暗闇」だ。</p> <p>普段からは、目が慣れていないせいで真っ暗だ。しかし、本当の文化や芸術の本質が豊かに溜まっている。埋もれていると言っているかもしれない。</p> <p>現場感覚でなければ目の当たりにして理解するのは難しいと思う。</p> <p>しかし、そこをのぞき込んでこそ、有効で有益な文化芸術振興政策の制度設計になると思う。</p> <p>床の上の「お花畑の絵」は、経済の光によって輝いて目視できる。</p> <p>しかし、床下の闇は、経済の光が届かない世界です。ぶち抜いた床の底に向かって下りてゆこうと思ったら、暗くて怖い感じがするかもしれない。</p> <p>これまでの施策の枠を超えて、より開かれるということは、費用と成果の単純な関係ではなく、公的資金や民間資本や、新たな雇用や活動体の創設といったエネルギーでモーターを回し、発光して底の世界が見渡せるよう</p>	

NO.	ご意見の概要	本市の考え方
	<p>になる。</p> <p>その世界は「お花畑」ではなく「抽象画」に見えるかもしれない。しかし、例えば古いものが実は最先端になるような、豊かな幸福の原石を発掘できることだろう。</p> <p>闇を照らす文化政策がいま世界中で求められていると思う。</p>	